僕は一反木綿



vol＊3



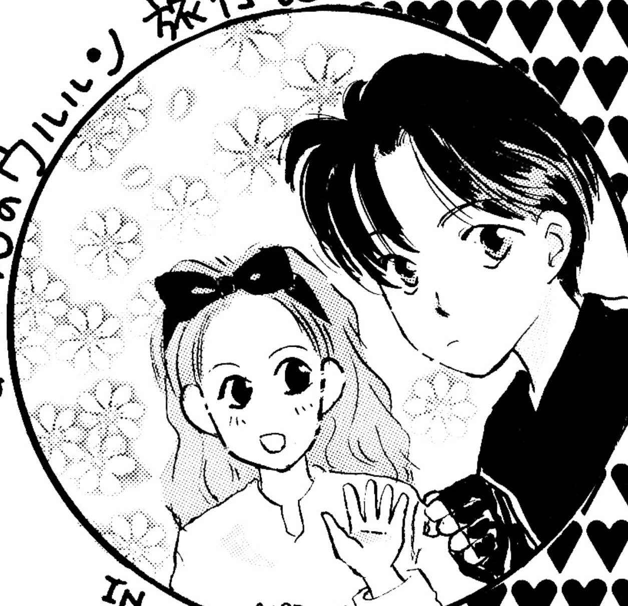






僕はいったんもめん 3

あいれんのウルルン旅行記 IN 境港♥



♥ という訳で、一反木綿3"は、
大・大・増量Pでお届けする、8/25、
世界妖怪会議の、夏彦せんせ、
おっかけ(笑)レポートです。

いや、ちょっとマジメなところもあるよ。

いつもと、ガラリと変わった内容です。
本当、レポート中心。いつものシリーズのようなもの
は、来年「一反木綿4"」にて。

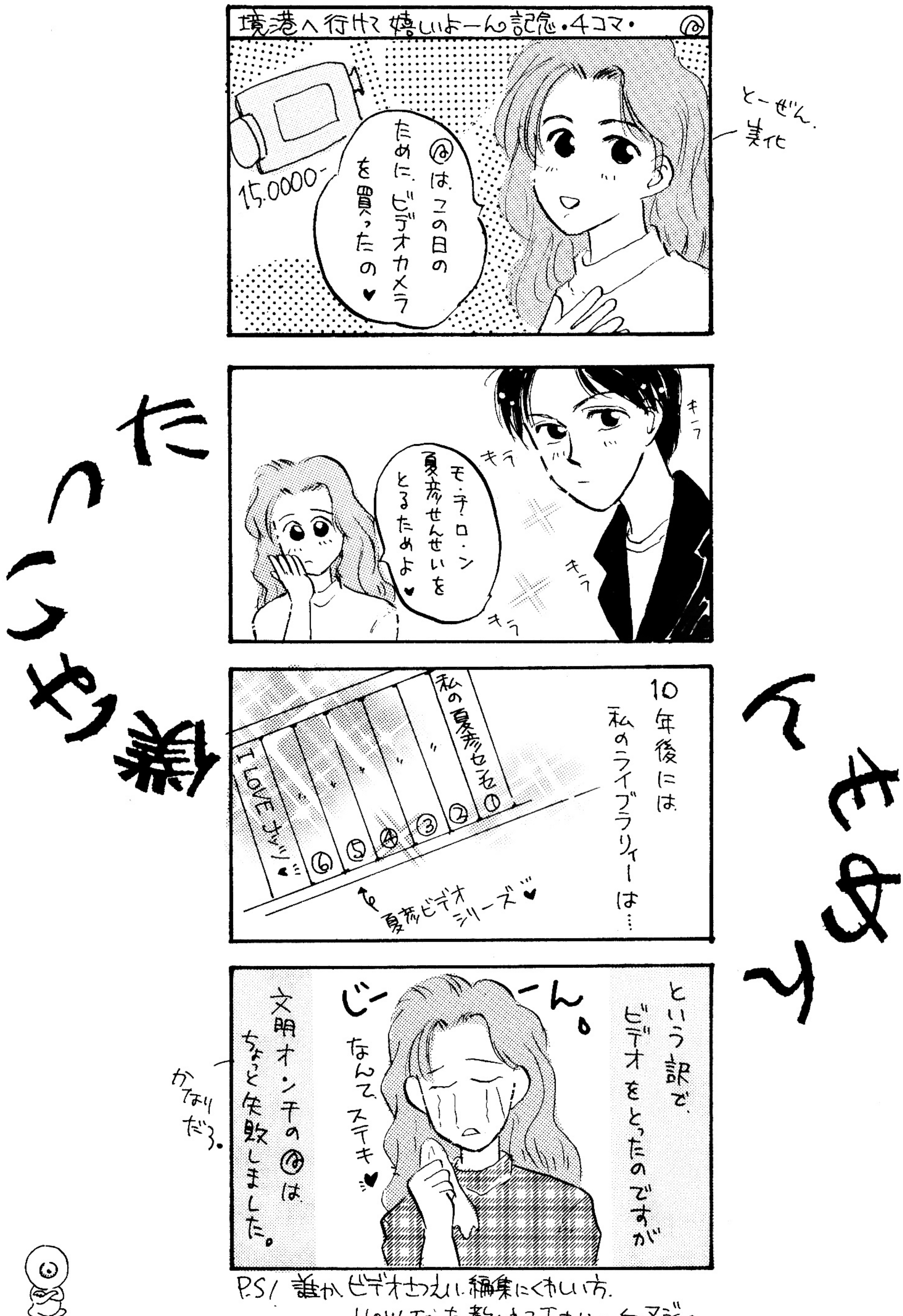
鬼太郎まんじゅう
↓ うまい、ドラ焼きみたいな感じ。

← これは、境港のおみやげ。
9/1、京極サークルさんの友人と食べたよ。
カワイイでしょー。他、鬼太郎せんべいも購入。激カラ入り。ちなみに激カラは、源屋さんに…。どうでしたー？
カラかったですかー？



← きゅうりのつけもの。

1996.8.24. 水木しげるロード・レポート!!





見る

■水木しげるロード…… M107左

漫画家・水木しげる氏が生まれ育ったのにちなんで造られた。鬼太郎やネズミ男など『ゲゲゲの鬼太郎』のキャラクターのブロンズ像が松ヶ枝町商店街沿いにずらりと並んでいて、なんともユニーク。JR境線には鬼太郎列車も走っている。

水木しげるロードに到着！

愛蓮は、結局一人で境港へ行きました。いやねぇ、日程がCITY大阪と重なってしまって、一緒に行く予定だった詛戸さんが行けなく　なってしまったのですね。

私も本当はイベントに行かないといけなかったのですが、真崎祥ちゃんに押しつけて《妖怪会議》を優先！　やはりイベントより夏彦先生が大切ですから♥　⬆私なら当然でしょ。

成田空港から、飛行機に乗って一時間くらいで、米子に着きました。国内線って初めてだったからドキドキでしたね。ドリンクサービスあるとか知らなくて、ジュース買い込んで乗ったあたりが初心者でしょ。

米子空港は信じられないくらい小さくて、駅みたいでした。（いや、東京駅の方が大きいと思うよ）

そこからタクシーで少し行くと、もう境港です。タクシー代は千五百円くらい。思っていたより近かったですね。

夢の水木しげるロード！　ずっと行きたかった場所なので、着いたとたんに浮かれてしまいました。駅前でタクシー降りたのですが、降りたとたん目の前には『河童の三平』のブロンズ像が！　感激ですよ〜。じ〜ん。近くには、河童をイメージした公衆トイレもあるし、とにかく妖怪がいっぱい♥　ブロンズ像は本当によく出来てますよ。生きてるうちに一度は見たほうがいいと思うね、私は。

それから旅館≪美保の松旅館様≫に荷物を置きに行きまして、さっそくロードを散歩することにしました。

昼間くらいでしたが、けっこう観光客がいて楽しいです。みんな妖怪大好きって人ばかりですから。子連れも多かったかな。

若い女の子も沢山いました。

一体、一体、ウキウキと妖怪のブロンズ像を見ながら、ロードの中心くらいに行くと、なにか式典をやっている模様。人だかりの中に入り、見てみると水木しげる先生の姿が・・・♥

《水木しげるロード完成式典》

八十体揃った記念の式典だそうで、市長さん達も揃っておりました。そこに愛蓮は京極先生の担当さんを発見！　お声をかけてみた所、先生も式典を見学しているそうで。なんてラッキー♥　探してみたところ、椅子に座って式の様子を見ていらっしゃる素敵な先生のお姿が・・・。黒のスーツ着用。勿論、手には例のドライバーグローブ♥「来て良かった」もう嬉しかったですよ。ひと目あなたに状態ですから。

式典の後、ロード完成のテープカットを行い、《入魂式》にうつりました。大勢の水木先生ファンが囲む中を、水木先生が一体ずつ妖怪像に魂を入れていくというもので（笑）、大変そうでした。ご老体が〜疲れちゃうじゃない…。京極先生もその様子をしばし見学。《入魂式》にはウケてましたよ。ちょっと笑ってました。⬆可愛い♥

愛蓮は、図々しいことに命をかけてるので（笑）、京極先生に話かけちゃったりしました。次作は十一月であるとか、まぁいろいろお話して頂いたのですが、猿より物忘れが激しい愛蓮は、ドキドキしてたのも手伝って、何を話したのかは覚えてません。

ロードを散歩しながら、お話してたのですが、途中お子さま連れのファンの方が、サインを求めてきました。夫婦共々ファンらしいです。赤ちゃん連れてて微笑ましい。

で、京極先生は荷物を預けてあるという所へ行き、色紙にサラサラとサインしてました。妖怪は『ぬっぺっぽう』だった気がしますね。ちゃんとに絵入りのサイン♥

注目すべきは、サインセットを持ってきていたということ。何故？　でも優しいですよね。ファンの方とかいらっしゃるのを想定して、サインセット持って来てくれるなんて。

ちなみにサインセットとは！

①ぺんてる筆ペン
②朱肉
③「京極夏彦」及び「御祓済」のハンコ

それが黒（皮っぽかった）の巾着に入ったもので御座います。こんなことまで監察してる私は、少しマズイですよね・・（笑）

それから、写真も撮ってました。シャッターは私が押したりしてたんですが、上手く撮れてたかなぁ…。先生のファンの子連れ夫婦の方は、本当に嬉しそうでした。

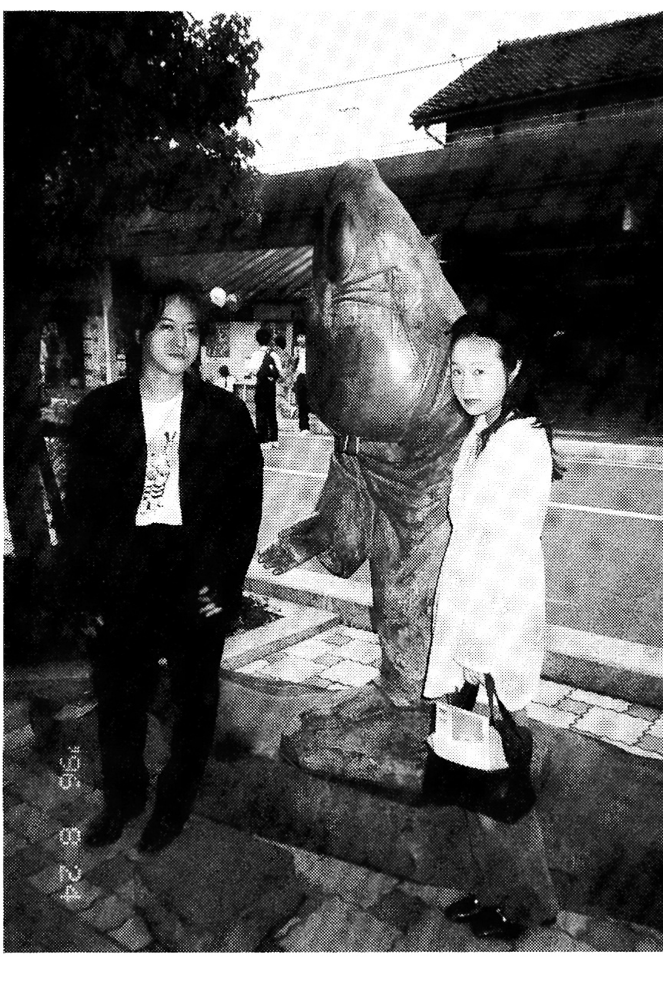
よかった、よかった。

あ、愛蓮も先生と一緒に写真撮って頂きました。ネズミ男を挟んで。愛蓮はネズミ男の大ファンなんで（十年以上ラブだ！）とても嬉しかったです。と、少し自慢をしてみましたが、そんなに羨ましがられないんですけどね（笑）　アイドルじゃないんだから・・・。でもいいんだもん。私は、凄く嬉しかったんだもん。世界中の人に自慢したいくらい。⬆バカなのでほっておいていいです。

そして、先生は担当さんと控え場所になってる食事処へ消えて行きました。

そうそう、この日の先生のスーツのインナーは「悪魔くんTシャツ」でした。ちゃんとメフィスト様も入ってるの～♥　私も悪魔くんTシャツ欲しいよ。（悪魔くんだと、メフィスト様のファンです）

それと、一反木綿ペンダントもしてました。木製の手作りグッズだそうです。ロードの町内の方が作ってるそうで、この日は関東水木会のメンバー・他スタッフは全員つけてたらしい。一反木綿ちゃん（夏彦先生のモーリシャスでの愛称）が、一反木綿をつけてる～。私はなんだか嬉しかったです。ほのぼのと喜んでました。





水木しげるの世界が町を覆う



80体そろい完成式

境港の「水木しげるロード」

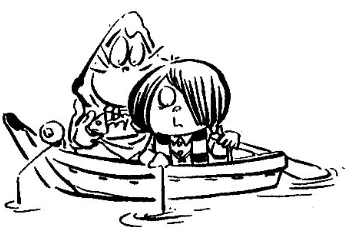


「のんのんばあ」（左）と「おれ」像を見る水木さん、後方は黒見市長

境港市が、市出身の漫画家、水木しげるさんの作品の妖怪のブロンズ像を設置した「水木しげるロード」の完成式典が24日、同市本町の「水木しげる記念館（仮称）」予定地であった。市民や観光客約1000人が参加。黒見哲夫市長が「多くの人に親しまれ、愛されるロードに」とあいさつ。水木さんは「80体そろい、一段落ついた」と述べ、大勢のファンに囲まれながら像を見て回り、名前の由来などを説明。「おもしろい。こんなに大当たりするとは、夢々考えなかった。像はよくできている」と話していた。

この後、JR境港駅前では、同氏の全国のファンによる「ゲゲゲのしげる会」の設立総会「水木しげる先生とファンの夕べ」もあった。

同ロードは「妖怪に逢えるまち」をキャッチフレーズに、市が同氏の代表作「ゲゲゲの鬼太郎」「カッパの三平」の妖怪像80体を取り付けてきた。今年設置した「のんのんばあ」と「おれ」など9体ですべてがそろい、レリーフ5基も完成。来年度は記念館を建て、全事業を終える予定。



⬆毎日新聞　１９９６．８月２５日（鳥取版）

水木しげる先生とファンの夕べ

そして、三時からは≪水木しげる先生とファンの夕べ≫という催しが駅前広場で行なわれました。

どんなものか解説していきましょう。

市長のあいさつから始まり、まずは『鬼太郎とモンスターズ』という町内で結成された市民バンドの演奏。やる曲目は勿論、鬼太郎の主題歌・カランコロンの唄など。

ネズミ男・ぬりかべ等の着ぐるみも登場して、子供たちは喜んでました。またその着ぐるみが手作りって感じで微笑ましいんですよ。はい。

そして、水木先生との交流会と題されたコーナーへ移り、第一部『水木先生とわたし』パネラーは、後程紹介しますが、林巧さん、多田克巳さん、そして京極夏彦♥

内容はというとですね、水木しげるをカタルというところでしょうか。先生との出会い、先生ってこんな人というような事を意気揚揚と語る御三方は見ていて、本当に幸せそう♥　オノロケ状態といいましょうか、自慢対決といいましょうか。はい、そんな感じでした。ボクは、水木先生の漫画のキャラクターになっているとか多田先生は云っていましたし。京極先生は、水木先生との出会いを嬉しそうにお話してました。

ちょっと先生の話したとこだけ抜粋してみますね。

水木先生との出会い　京極編

京極➡『僕は、あの、つい最近までただのファンだったんですよね。二年前にこの境港で、水木ロード第二期完成の記念式典が行なわれて、その時に参加したんですが、ビデオを撮影しまして、で、そのビデオをちょっと編集致しまして、先生のところにお持ちしたんですよ。そしたら、先生、最初ぜんぜん興味がないようでしたけど、何日かしましたら、ハガキに真っ赤な文字でですね、≪大変感心しました≫ということを書いたハガキが届きまして。で、なぜ赤いかということが書いてあるんですよ。≪僕は余程感動しないと赤い字は書かん≫と書いてありまして、是非もう一度来てくれと。で、行きましたらですね、自分のとった８ミリフィルムをビデオにしてくれと頼まれたという。頼みたいからよんだという。それだけだったんですけど。（笑）それがそもそもの出会いというかまぁ、それまではタダの取り巻きのファンだったんですけど』

司会者➡『じゃ、はじめは妖怪というよりはビデオ編集の腕をかわれたという――』

京極➡『えっ、事務的な関わりが最初です。その時僕まだ作家になってなくてですね。ビデオを持ってった時にデビューしたような感じだったもんですから。そしたらなんか、タダのオヤジかと思って呼んだら作家かというんで吃驚されたという。それが最初ですね。あの僕、関東水木会という団体に入っておりまして、それがきっかけで、なかなか活発に活動できるようになりまして、少しは会の役に立ったかなぁと思っております』

司会者➡『京極さんの本の推薦文を水木さんが書かれてるようですけど』

京極➡『そうですね。えぇ目をかけて頂いてました』

司会者➡『たいへん関わりが深くなってきているようですね。有難う御座いました』

～「ゲゲゲのしげる会」設立総会～
水木しげる先生とファンの夕べ
第１回 世界妖怪会議 前夜祭
と　き　平成８年８月２４日（土）午後３時～
ところ　ＪＲ境港駅前広場



水木先生との面白いエピソード　京極編

〜多田克巳さんの水木先生は妖怪かも知れないという話をうけて〜

京極⬇『今、水木先生は妖怪かも知れないとおっしゃいましたが、妖怪です。あの、それは多分間違いないことで、断定してもですね、誰も否定する人はいませんし、遠慮することはないと思います。水木先生は妖怪です。で、あの…水木先生くらいの大御所になると細かいこととか余り気にされないというような風な印象があると思うんですけども、実際確かに細かいことは余り気にされないんですが、えー非常にですね、計算が早いんです』

司会者⬇『回転が早いと』

京極⬇『いや、計算が早いんです。で、それはなんの計算かと云いますとですね、印税計算。あの、私最初に本を出した時に、定価と部数を聞かれたんです。で、何故そんなことを聞くのかなぁと思いましたら、それ云ったとたんにですね「じゃあ、いくら儲かったな」と。ほぼ3秒くらいの間で計算されている。だから非常にそういう現実的なところがあるんですよ。で、そこはしっかりしてるんですが、でも妖怪の話になるともう駄目なんです。あの、ほとんど常識的な範疇でおさまらない暴走が始まるんです。つまり、やっぱりそれは正体が妖怪だからで』

司会者⬇『あ、人間の頭と目では、はかりしれないものがあると』

京極⬇『それから、やっぱりもう七十を過ぎてますから、普通でしたら、もうお年ですよね、と云われても仕方ないんですが。えー、とにかく食べます。あの食欲は驚きます。さっき多田さんもおっしゃってましたが。あの…行くとちょっとお菓子とか出されるんですが、こちらはやっぱり遠慮しますから、手をつけにくい状況ですよね。そうすると、まずご自分で味見をされます。えー3つ4つでしたら、まぁ2つ3つ（笑）で、美味しいですからどうぞと云うんですね。そんくらいよく食べられます。で、あのジャングルとか行かれても現地の食物をモリモリと食べて…』

林巧⬇『あの…食べるのはね。あの先生はたくさん食べるだけではなくて、普通の人の食べないものを食べます。あの…ジャングル行って現地の人が食べるのは普通ですよね。それでも食べない…普通、日本人なら食べないものも食べます。が、たとえばピーナッツの実を生で食べるということは現地の人もしないんですが、先生は美味しそうだと、とりあえず食べる。で、ちょっと喰えそうにないと食べてから判断する。というところがありますね』

京極⬇『で、腹は壊さないんですかね？』

林巧⬇『壊さないんです』

京極⬇『そうですよね。たいてい若者でも腹こわすでしょ？　えー、あまり悪口を云うと、ちょっと祟りがありそうなんで、この辺で』

司会者⬇『最後に、明日の妖怪会議への意気込みを……』

京極⬇『明日は、荒俣先生とかもいらっしゃいますんでね、難しい話にならないように、できるだけわかりやすく話そうねと、今も三人で話してたところなんですけど、わかりやすく妖怪の話ができるかどうかは難しいところで……頑張ります』

以上、水木しげる先生とファンの夕べにおける京極先生の発言集でした♥

ビデオテープから必死に文字におこしてみました。行かなかった方は、NHKソリトンに出演なさった時の先生の口調・声を想像しながらお読み下さい。

もう、本当に御三方、出し惜しみ気味に水木先生とのエピソードを語られてて、本当に楽しかったです。

とくに京極先生。マジで水木先生を敬愛してるのね！♥　という感じです。

この後に、小泉八雲の曾孫さん？　小泉凡さんによる《小泉八雲と妖怪》についてのお話や、水木先生ご本人による《妖怪とは？》という講演がありました。なかなか

興味深いお話でした。
　そして、妖怪Tシャツコンテスト・私の自慢品コーナーなどファン参加の楽しい企画や、《ゲゲゲのふるさと》というゲゲゲのしげる会のテーマソング披露・鬼音頭の披露などがありました。

鬼太郎音頭です

　約、千人のファンが集まってのイベントは6時半頃に終了。水木先生のご参加もあり、ファンには嬉しい思い出になったのではないでしょうか♥
　愛蓮も、とても楽しかったです。

☆プログラム

15:00	開会の辞・会長あいさつ（総合司会 水沢 健一）
	来賓あいさつ　　境港市長 黒見 哲夫
15:10	「鬼太郎とモンスターズ」
	ゲゲゲの鬼太郎の主題曲等の演奏
15:30	水木先生との交流会
	1部 「水木先生とわたし」（パネラー）多田 克巳氏
	林　巧 氏
	2部 「小泉八雲と妖怪」　（講演）小泉　凡 先生
	3部 「妖怪とは??」　（講演）水木 しげる先生
17:20	妖怪T.シャツ審査
	私の自慢の品コンテスト
18:00	「ゲゲゲのしげる会」テーマ曲《ゲゲゲのふるさと》の披露
	（歌）　石田 光輝
	（踊り）鬼太郎音頭保存会
18:30	閉会



関口くんのモデルさんが・・・

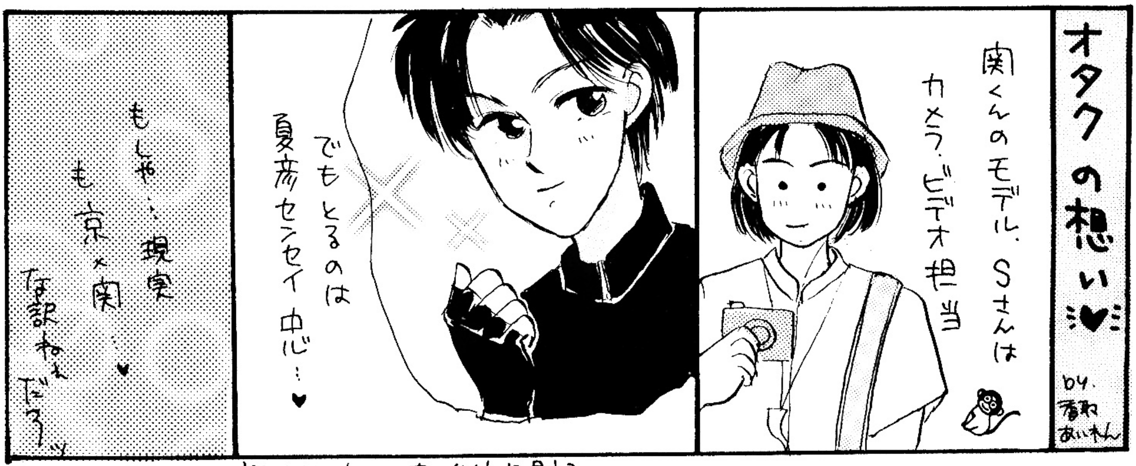


一般人のことですので、詳しく書くのは控えますが、関くんのモデルである京極先生のお友達がビデオ撮影担当として同行してました。

日本推理作家協会賞の受賞記念パーティにきてたという話は聞いていたので、お会いできて嬉しかったです。その時、京極先生が「関口のモデルで、僕の奴隷です」と云ったとか、云わないとか。

髪は長め（あれはおかっぱというのか？）でしたが、私の中の関口君のイメージそのまんまでした。関君が広末涼子（ＢＹ：桃ちゃん）とかいうドリームを持ってる方もいるので詳しくは秘密にしておきます♥

ちなみに、京極先生の奥様はたいへん美人であるとのこと。これも受賞記念パーティに行ってた方から聞いたのですが、和服姿で髪をアップにしていて、銀座のママさんも吃驚だそうです。やはり…千鶴子のモデルは絶対、先生の奥様ですよね！



それはもう、ナッツのおっかけ に見える♥

そして、夜…

ファンの夕べが終わり、愛蓮は旅館に戻りまして夕飯です。さすが、境港。煮魚が美味しかったですよ。なんの魚かわかんないけど、味は金目鯛に似てた。

で、境港へ訪れる人の為に、ワンポイント・アドバイス。

バスタオル・歯ブラシ・シャンプーは自分で用意しておきましょう。タオルが無くて泣きました。（旅館の人が、貸してくれて良かったです）

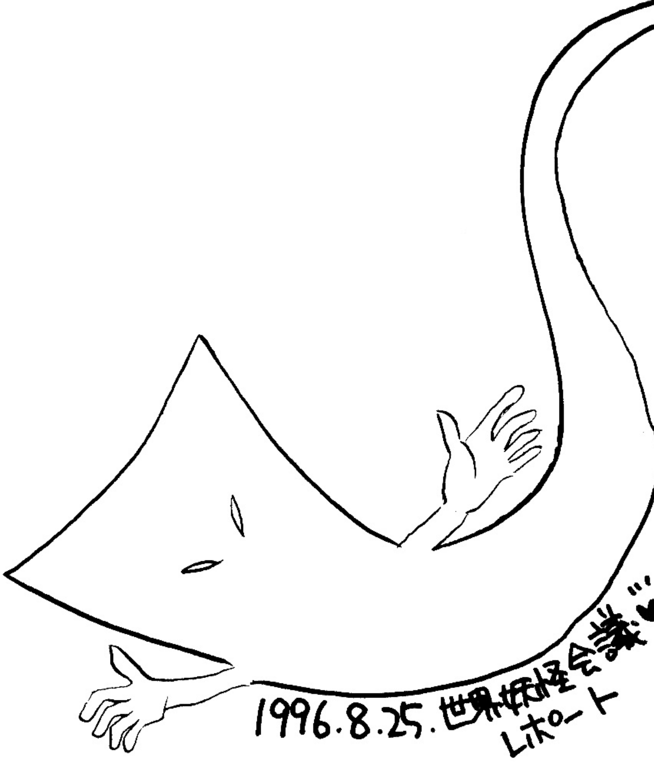
あと、駅周辺にはコンビニはありません。要注意です。次は、絶対レンタカー借りてやる・・・。

実はこの日（２４日）ＳＭＡＰの夏コン最終日だったんですよ。沖縄。実は、直前までどっちに行くか悩んでたのね（二十五日、朝イチ飛行機のれば妖怪会議間に合うから）。テレビでコンサートの生中継みた時は、一瞬、後悔しかけましたよ…。でも、境港を選んで正解でした。本当にいい所ですよ♥

境港で見た、このテレビのことは忘れないね。一人で淋しかったし、夜。

でも昼間は、水原るいこさんとかも来てたから、楽しかったですよー。読者さんとも遊べました。ありがとね！





飯窪季世恵

僕はいったんもめん





第一回世界妖怪会議レポート

内容については、次ページからの全内容公開をご覧下さい。SM●Pの相方・KANTAと愛蓮の血と涙と汗の結晶ですから。

この日は、お天気もよく愛蓮は朝からお散歩してました。何回見ても飽きない妖怪のブロンズ像。ちゃんとに鉄鼠とかいるから、一度は皆様も見にいきましょうね。

そうそう境港の電灯には注目です。目玉のおやじ仕様です。夜はちょっとコワイかも…。

あと、歩いてるとセンサーが作動して、鬼太郎のゲタの音とか、主題歌が流れるシステムにもなっててオシャレですよ♥いいなぁ、凝ってて。

そして、1時半からなのに、十時には会場へ行きました。だって一番前で見たかったんだもん。やはりまだこんな早くから来てる人は少なくて、水木しげる展をゆっくり鑑賞できました。ちなみに愛蓮は水木先生の鬼太郎・悪魔くんといったメジャーな作品も好きですが、ラバウル戦記ものや、ブラックなお話（サンコミックス・『死者の招き』で私は水木先生に更にはまった女です）が好きなんで、すごく嬉しかった。感動しました。

早くいったのには、トクな事もあって、水木先生・京極先生等が写真撮影してました。（笑）

その後、枕返しの人形を挟んで、京極先生は展示物も楽しそうに見学してました。早起きは三文の得なのだ。

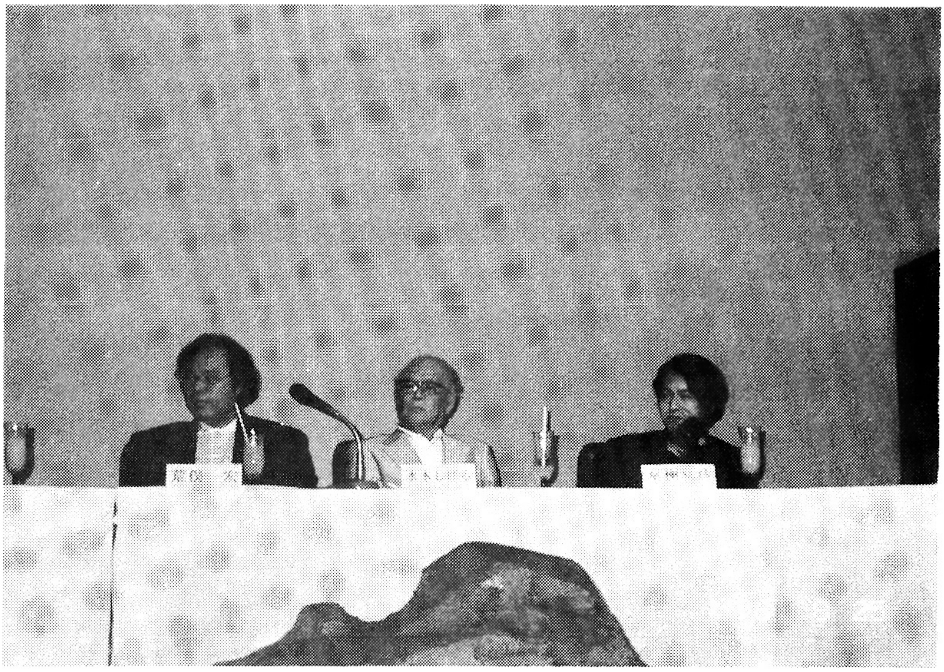
早めに並んだ成果もあり、一番前で見ることが出来ました。だから何？と云われても一番前で見たかったのよ。（笑）

で、市長の開会のあいさつがあり、民族音楽者である山田陽一先生の『音と光のファンタジー』と題した音と人間と精霊に関する講演をへて、いよいよ開幕です！

⑯ 大かむろ

◆外で物音がしたので、戸を開けると巨大なお化けの首がある。





第一回世界妖怪会議全内容

ＢＹ：松本 愛蓮

一部協力・ＫＡＮＴＡ（サークル：マンボ・バカン）



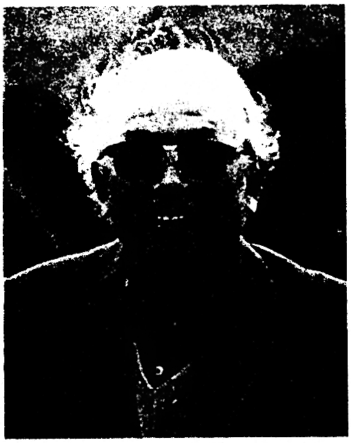
都市化が進むなか
私たちの回りにいた妖怪たちは
今どこに行ったのでしょうか
妖怪たちはきっとあのころを
懐かしく思っているに違いありません
豊かな自然が残り
人情味あふれる社会がやっぱり
いちばん住みやすかったと
・
・
妖怪とは何か
地球上の妖怪を登場させるなかで
妖怪の魅力を探求したい
妖怪を通じてまちづくりも考えてみたい
・
・
・
私たちが忘れかけていたことを
ふと　思い出す会議にしたいと考えています
・
・
・
・
・
・
・
・
さあ 第1回 世界妖怪会議の始まりです

PROGRAM

13:00	開会のあいさつ	境港市長	黒見 哲夫
13:05	音と光のファンタジー		山田 陽一
13:35	公開座談会		
	コーディネーター		足立 倫行
	パネリスト		水木 しげる
			荒俣 宏
			京極 夏彦
			多田 克己
			林 巧
			山田 陽一
15:10	休　憩		
15:20	アトラクション		
	鬼太郎音頭踊り		鬼太郎音頭保存会
	ゲゲゲのふるさと		石田 光輝
15:35	山陰・夢みなと博覧会キャンペーン		
	お楽しみ抽選会		

総合司会：小倉 恵子





水木 しげる （みずき しげる）

1922(大正11)年、境港市生まれ。妖怪漫画家の第一人者。43年、太平洋戦争に従軍し、ニューギニア戦線で爆撃を受け左腕を失う。46年に復員後、紙芝居画家となり、「鬼太郎」を生み出した。57年、単行本「ロケットマン」で漫画家デビュー。以後、貸本文庫に戦記・怪奇ものを発表する。65年、「別冊少年マガジン」に発表した「テレビくん」で第6回講談社漫画部門賞を受賞。68年にはテレビアニメ「ゲゲゲの鬼太郎」が放映開始され人気漫画家に。代表作に「墓場の鬼太郎」「カッパの三平」「悪魔くん」また、著書に「のんのんばあとオレ」「水木しげる日本妖怪大全」など多数。妖怪を描きながらユーモアやメルヘンを感じさせる作風に根強い人気がある。91年紫綬褒賞受賞。96年文部大臣賞受賞。世界妖怪協会会長、日本民俗学会会員、民族芸術学会評議委員。



足 立 倫 行 （あだち のりゆき）

ノンフィクション作家。1948（昭和23）年、境港市生まれ。早稲田大学政経学部在学中に1年間アメリカ、北欧を巡り、大学中退後、70年秋から約2年間世界を放浪する。帰国後、週刊誌記者を経てフリーに。著書に「一九七〇年の漂白」（文春文庫）、「日本海のイカ」「北里大学病院24時」（新潮文庫）のほか、同郷の漫画家・水木しげる氏の人間像を克明につづった「妖怪と歩く　評伝・水木しげる」（文芸春秋）などがある。社会のさまざまな断面を独自の視点でルポし、近年ではテレビのドキュメンタリー番組でもリポーターとして活躍。

荒俣　宏（あらまた ひろし）



1947 (昭和22) 年、東京生まれ。大学卒業後、某銀行コンピューター室でプログラマーの草分けとして10年間勤務の後、作家に転身。膨大な知識を駆使して、ジャンルにとらわれない文筆活動を展開。オカルト、博物学、図像学、風水を流行らせた張本人。水木氏とは、二十数年来の付き合いで、今でも妖怪研究のため、連れ立ってニューギニアあたりに出没しているところを目撃されている。
著書に「帝都物語」（第８回ＳＦ大賞受賞）「世界大博物図鑑」（サントリー学芸大賞受賞）「夢の航跡」（講談社）「ヨーロッパホラ紀行ガイド」(講談社)「ＶＲ冒険記」（ジャストシステム）他多数。

京極夏彦（きょうごく なつひこ）



アートディレクター、小説家。1963 (昭和38) 年、北海道小樽市生まれ。94年「姑獲鳥（うぶめ）の夏」(講談社) でデビュー、ミステリの枠に止まらぬ作風で脚光を浴びる。第２作「魍魎（もうりょう）の匣（はこ）」で第49回日本推理作家協会賞長編賞を受賞。
以降長編「狂骨の夢」「鉄鼠（てっそ）の檻（おり）」短編「小袖の手」「文車妖妃（ふぐるまようひ）」「目目連（もくもくれん）」（すべて講談社）など妖怪を主軸にした作品を次々に発表、師と仰ぐ水木しげる氏より『妖怪小説』の名を拝命し、妖怪小説家として活躍する。
最近では装幀家としての活動も盛んである。水木しげる氏のカルトマニアで構成される関東水木会の会員でもある。
最新作は「絡新婦（じょろうぐも）の理（ことわり）」（講談社）。



多田克己 (ただ かつみ)

1961(昭和36)年、東京都葛飾区生まれ。東洋美術学校造形グラフィック科卒業後、グラフィックデザイナー、イラストレータを経て日本各地の神社や伝承を研究。その後、作家、妖怪研究家になる。著書、著作に「幻想世界の住人たち(日本編)」(新紀元社)、「SAILOR MOON・SPECULATE」(キネマ旬報社)、「歴史の謎を探査せよ」(三栄書房)がある。また、今年12月発売予定のCDロム「水木しげるの妖怪世界」(講談社発行)の監修・製作を担当中。文学、神話学、宗教学、民俗学、人類学、考古学、博物学、生物学、自然科学、心理学、美術の総合学としての"妖怪学"を提案している。



林　巧 (はやし たくみ)

フリーライター。1961(昭和36)年、大阪生まれ。慶応義塾大学文学部を卒業後、雑誌編集者を経て、フリーランスの執筆活動に入る。アジアの純粋で、どこか懐かしいたたずまいの妖怪たちに強く心惹かれ、東南アジア各地の街やジャングルをまわりながら、まだ世界に伝えられていない、アジアならではの妖怪譚を採取している。アジア各地の民族楽器、ことに中国伝統楽器の二胡にも熱中している。著書に「アジアおばけ街道」(扶桑社)、「アジアおばけ諸島」(同文書院)、「アジアおばけ旅行」(講談社KK文庫)、共書に「香港発熱読本」「台湾興奮読本」「怖い話の本」(いずれも宝島社)など。



山田陽一 (やまだ よういち)

民族音楽者。1955(昭和30)年、山口県下関市生まれ。大阪大学大学院文学研究科博士課程中退。学術博士(大阪大学)。島根大学助教授を経て、現在、広島大学助教授。1979年よりパプアニューギニアにおいて、音と人間と精霊の関わりについてフィールドワークを重ねてきた。単著に「霊のうたが聴こえるーワヘイの音の民族誌」(春秋社)、共著に「環境と音楽」(東京書籍)、「オセアニア②伝統に生きる」(東京大学出版会)、「音と言葉」(音楽之友社)、「生活技術の人類学」(平凡社)、「二〇世紀の音」(ドメス出版)、『「音」のフィールドワーク』(東京書籍)などがある。International Council for Traditional Music会員、The Society for Ethnomusicology 会員、日本音楽学会委員、日本民族学会会員。

足立／　本日は、世界妖怪会議にようこそいらっしゃいました。私が、公開座談会、司会を承りましたルポライターの足立倫行です。私は水木先生の後輩でありまして、鳥取県境港市の東雲町？で生まれました。小学校四年までそこで過ごしましたので、この海・山・川・畑の風景というのには、とても懐かしいものを感じています。ところがですね、水木先生とは違いまして、ちょっと水木先生風に言えば妖怪感度が低いと言うのか、自分の子供の頃を振り返ってみても・・・。あの郊外に《加賀の潜戸？》というのがあるんですが、そこで人魂が飛ぶというような話を子供の頃に聞いた事がありますが、実際に行って見た事はありません。それから昔に　、《アスカシロウ》という武将がですね、弓ケ浜の中程に住んでいた鬼を退治して、そこに平定して住みついたという伝説があるわけですけども、私が生まれる一年前は村でしたから、村外れにはシラオ神社、《シロウ》からとったシラオ神社というのがあるんですが、そういう話は聞いたことがありますが、中々その実物の妖怪には妖怪感度が低いものですから出会ったことがありません。そこで、今日はですね、さまざまに人生のですね、大半のエネルギーを妖怪探求に費やしていらっしゃる先生方をお迎え致しましたので、その魅力と出来ればその存在の一端にまで迫ってみたいと思います。その橋渡し役を、私普通の凡人である足立が務めたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

それでは、今回はですね、本日世界妖怪協会というのが発足しまして、その第一回の世界妖怪会議ということなので、その開会宣言をまず、水木しげる先生にして頂きたいと思います。先生、よろしく。

水木／　第一回世界妖怪会議の開会を宣言致します。

足立／　私自身、出席していてこういうのを聞くのは何なんですが、世界妖怪会議というのは一体どうして出来たんですか？　その経緯と言うのを少し簡単にご説明願います。

水木／　あぁ、経緯…一番苦手なことですけどもね。このやっぱ妖怪っていうのはね、あそこの水木しげるロードにおる《小豆あらい》とかね《朱の盆》とか、いろいろ居ますけど、あれだけ眺めたって妖怪の正体は中々わからんのですわ。だいたい、まぁ元々目に見えないもんですからねぇ。《八百万の神：ヤオロズノカミ》とか、あぁいうものの親類筋にあたるわけですよ、妖怪は。だから出雲の三九九の神様がおるわけですけども、これが皆親類筋にあたるし、それらの色々を調べることによって妖怪はわかって行くのです。今迄、あの全然放置されていた感じの状態ですから、日本だけでなくですな、世界ですね、さっきニューギニアの



話じゃないですけど、世界中に同じようなものが居るんですわ。これを私は非常に驚いて、世界中を回って集めているわけですけども、妖怪はどうも居るらしいというのを皆に分からせる為にはですね、三日程説明しなきゃいかんようなことになりますんで、今日は簡単にあれしておきますけどもそういう風にその世界のいろんなことをですね、神秘的なことを知らんと中々妖怪の正体はわからんのです。それで、まぁ、荒俣先生みたいに何でも知っちょるという人間にいろいろ手伝って貰わんとならん。中々正体がわからんなんてもんですから、それでこう段々広がっていって世界妖怪協会となってしまったわけですが。で、第一回ははっきりしたあれではないですけど、これからまぁ、はっきりとした方針を色々決めてですね、やっていこうと思っております。だから、第二回から皆が吃驚する様なもんが出来るんじゃないかと思います。まぁ、第一回はこれくらいで終わっておきます。

足立／　まぁ世界中に似たような妖怪がいるということで、境港から水木しげるが立ち上がったと。そういうお話だったと思うのですが。それではですね、最初にその妖怪の魅力、皆さんそれぞれ出会い方が違うと思いますので、お一人お一人ですね、簡単にその出会いと魅力みたいなことを語って頂きたいと思います。最初に、同業者であるフリーライターの林さん。東南アジアを色々巡っておられますが、どういう風に出会って、どういうところに興味を感じられたのでしょう？

林／　はい。えーと僕は、東南アジアの妖怪の話にとても興味を持って色々集めてるのですが、今回来て皆と話してまして、妖怪と云う言葉で捕えようとすればするほど逃げるようなところがありまして、中々定義しずらいものなんです。だから僕自身の関わりを話してくことで、なにか皆とバッティングしていく方が…。最初、台湾でですね、もう7、8年前。あの「鬼太郎」の《鬼》って書いて、中国語では「クアイ」って読むんですけども。人が死ぬと中国文化圏ではすべてあの《鬼》というものになります。「クアイ」になります。で《鬼》っていうのは、ある種の霊です。それは人間の霊がなるんですが、その先《鬼》というものは、日本でいう妖怪化したり、あるいは神様になったり、いろんなものになっていきます。で、あの僕自身が一番新鮮に感じたのは《鬼》というのはどこにでもいると。

で、いつもその生きている人間となんらかの関わりをもって、《鬼》がいるということを前提にして、台湾の人たちは暮している。ということは非常に新鮮でした。で、《鬼》とは、そのまぁスタート地点、基本的に人間中心の世界観の中で出てくるものなんですけど、も、それと東南アジアを違う仕事で行った時なんかに、お化けの話を聞いてますとお化けの世界はもっといろんな広がりがありまして、タイではお化けのことは皆《ピー》と呼びます。例えば、悲惨な死に方をした魂は〈ピータイフウ〉というのになります。それが〈ピーなんとか〉ということで、なんとかお化けという意味になるんですけど、《ピーパー》というものがいまして、これはどういうものかと云うと昔まだ人類がこの世にいない頃、地球上はようするに霊だけが自由に飛びかっているという、そういう時代があったと。そういう時代に、あのまぁ日本語に訳しずらいんですが、《天空霊:テンクウレイ》と言うんですが、自由に霊が飛びかっている時代があってその中で気紛れな霊が地上に降りて土を食べてしまったと。土を食べることで霊の世界に戻れなくなってしまったと。で、その土を食べてしまった霊が《ピーパー》と呼ばれてまして、それが人類のはじまりだという言い伝えがありまして、今でもタイのある地域の人たちは、何かあるとその《ピーパー》にお願いをするという。そうするとかつての仲間だということで助けてくれる、という様なことがぁりまして。そうするとさっきの《鬼》も、その人が死んでなってしまう霊なんかと、また全然次元が違ってくるわけですよね。で、そのあとマレーシアでは、お化けのことを皆〈ハントゥー〉と言うんですけど、〈ハントゥーなんとか〉でなんとかオバケです。例えば《ハントゥージン》というのがいまして、これは訳すと〈巨人お化け〉ということですけども、例えばジャングルの中を歩いていまして、遠くの方でものすごい地響きがすると。巨木が倒れるような音がすると。で、行ってみると、ものすごい巨大な何者かがいると。そういうものを《ハントゥージン》というんですけども。これは要するに、あの先程の《ピーパー》とはまた違うんですけども。先程山田先生の音楽のお話の中でありましたように、精霊がその土地を守っていると。で、その世界は人間だけのものじゃなくて、そういう《ハントゥージン》を信じる人たちは、その《ハントゥージン》と人間の世界で、世界をちゃんとある取り決めをして、分けあっているということなんです。それは人類の祖先でもなければ、人類との特別な関係もないんですけども、世界を分け合う仲間であると。というわけで《ハントゥージン》というものはいるんですけども。…ま、今言ったように、その《鬼》から入った訳ですけども。ただ日本で云われている幽霊とか妖怪・お化け、日本でもかつて色々、日頃暮らしの中で言われてたと思うんですけども。東南アジアでは、そ

僕は妖怪が好きなんです。
の話を聞く中で色々把握させてくれるということで、
やって来て、どこへ行くのかみたいなことを、お化け
の非常にイキイキと生きていまして。人間はどこから

足立／　東南アジアでは、まだ日常世界などで、お化け・妖怪が非常に元気だということですね。

林／　はい。いや、いるのが当たり前・・

足立／　次は、あのまぁ日本の神祇や縁起その他ですね、非常にお詳しくて、また中国の妖怪にもお詳しい多田克巳さん。多田さんの場合はどうですか？

多田／　えーと、昨日(さくじつ)、葛飾区から出て参りました。で、葛飾区で京成電車という私鉄で乗ってきたんですけども、そこの公告吊りは全部あのこないだ亡くなられました寅さんこと渥美清さんの写真が全面に飾られていまして。で、あの〈寅さん〉の中で、あの寅次郎とか、妹のさくらさんとか、名前のなかで一つ、暮らしと鬼と関係あるんじゃないかとちょっと発見しまして。〈男はつらいよシリーズ〉という映画が、お正月映画として始まって、場所は柴又というという場所が選ばれまして、で何故その寅さんという名前にしたかというと、今のお正月っていうのは一月なんですけども、昔は節分の次の日からお正月だったんですよね。で、それをこう昔は年だけでなくて、年で〈ね・丑・寅・卯・・・〉ってなっていたんですけども。昔は二月の節分の日から寅の月になってまして、それでお正月というのは寅ということになっていたんです。で、その節分の日っていうのが鬼がやってきて、鬼がなにか悪さして、それを豆でぶつけて追い出すということをしてたんですけども。で、その節分というその日が方角でいうと、調度丑の月と寅の月の調度中間地点で、それが調度方角で云うと鬼門に当たっていて、その鬼門の方向から鬼がやってくると云うんですよね。その鬼を追い出すことによって、あの寅の月を迎えて、春がやってくると。であの民族学者の折口信夫とかが、あの《マレビト》という、…こう考え方で鬼がやってきて、鬼は悪さをするだけではなくて、その富をもたらすという。…こう言い出して、で春を迎えるのも鬼がやってきて、なにかを残してってって。…ようするに、冬を持っていって、春を残していくことによって、春を迎えるんだみたいな。で、男はつらいよの中で、寅次郎というのは、いきなりやって来ると、騒がしくなって。で、あのまぁ寅次郎・・・【奇妙な間】・・えっ、あの寅次郎っていうのは帽子をかぶって、で腹巻をして、で目立つ格好をして帰ってきて、その後、柴又というのは静かな場所だったんですけども、そのどんちゃん騒ぎになって、で、・・・【奇妙な間・笑】

あれですかね、説明・・・。鬼っていうのはあの現す時、身を隠すんですけども。で、帽子をかぶって表情かくして、腹巻でこう腹黒いとこを隠したりするんですけども・・・【奇妙な間・笑】

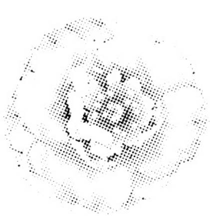
足立／　わかりました。じゃあまた後程。一応、フーテンの寅はですね、えー、ぷらりとやってきた≪マレビト≫ではないか。それは鬼に繋がるんじゃないかという御指摘だったんですが。次は、ベストセラー作家、今をときめくベストセラー作家でですね。あの日本でただ一人、おそらく妖怪小説家の異名をとる京極さんに一言。

京極／　えーとあの妖怪小説家っていうのは昔あの山田ノリオ？さんという方が・・・。

足立／　あ、そうですか。

京極／　ええ、さき先手があったということで。二人目？えー、僕の場合ですね、あの多く…水木先生なんかもそうなんですけども、幼少期の実体験あるいは現体験、そういったものが妖怪に結びついている場合が多かったり、あるいは林さんや多田さんのように現地に行かれて実際にそういうものに触れられて、感じられるということが多いと思うんですけど、僕の場合はちょっと違ってまして。だいたい、あの僕の妖怪体験というのは文献・資料…はっきり言っちゃうと…ちょっと文字・情報の中から引き出されたものであるようなんですよ。ですから、体験することによって感じる事よりも、そういう文字と文字・意味と意味の間、みたいなところから妖怪を感じとって育ったような気がしているんですよ。で、それってどういう事かっていうと、人間はやっぱりその目や耳や、五感を通じてしか物事を、世界というものを感じとれないわけですけども。その五感に感じられない世界というものは、また五感でしか感じとることが出来ないわけですよ。ですから、例えば色なんていうのは、人間の目に見えない色っていうのが数限りなくあるし、音も高周波・低周波で聞こえないわけですけど、これ実際にはあるわけで、ある以上、その中にさらされて生きている訳ですけど、それも含めて感じとれる範囲でしか感じとれていない。それをまた表現する時っていうのは、今度それを文字なり言葉なり、あるいは絵なり音楽なり…というのに変換して出してあげなければ伝達ができない。そういうちょっとダイレクトなコミュニケーションがとれないですね、必ずなにかワンクッション入って、世界と個人っていうのは直接的には結びつかない。っていう部分があるような気がします。その真ん中辺に、調度その文字だとか音楽だとか、そういうのがあると僕は思って。で、尚且つその実際に見ているものは本当な

んだろうかって思う時ってありますよねぇ？　実際自分が見ているこの世界というのは、本当に現実の世界なんだろうかとか…。それは、自分では判断つかない事だと思うんですね。で、やっぱりデカルト以降っていうのはその客観的なものというのは現前としてあるのか…、客観絶対主義みたいなものっていうのは根強くあると思うんですけど。それって言ってみれば、客観を感じていくのは主観なわけで、主観の特権化みたいなものがあると思うんです。そういうことを考えると今迄はそれでよかったんですけど、これからの世の中ってなんて云うか客観性を疑わなければいけない時代にきているんではないかという。…客観性を疑ってしまうと、もう取り留めがなくなってしまうっていう、まぁ見方もあると思うんですけど　客観と主観というのの関係性っていうのを、なんか補正するような意味で、そこの隙間みたいなところに妖怪ってものが僕はいると思っているんですよ。で、だからこの世の中が、世情が不安になってくると出てくるとかっていうのも、勿論あると思うんですけど、それだけじゃなくて。世の中自体が気付いているんだけど、なんか信じられるものがちょっと崩れてしまったとか、なんかパラダイムシフトを起こしてしまっている時期っていうのは、大量に妖怪が発生するっていうような気がしてるんですね。で、今の世の中ってちょうどそういう時期にきているんじゃないかと。過去の小さなそのパラダイムシフトではなくて、もっと大きな、あの言ってみれば究極の選択みたいなものが、目の前にきているような気がしているんですよ。そういう時期に向けて、そういうなんか妖怪的なものっていうのを無視して、世界認識できないんじゃないかと強く思ったりするわけで。ですから、ちょっと僕の場合はそのいるいないっていうレベルの問題ではなくて、いてもらわなくては困ると・・いう、ちょっと違ったところに身動きしてしまうんですけども。やっぱりそういう意味で、先程の山田先生の音楽にしろ、水木先生の芸術とか、そういうものと同じように、僕はその文字と言葉と小説という形で、妖怪を捕まえたいな。という気持ちが湧いてきちゃったということなんですね。それは多分、絵や音楽よりもすごく難しい作業で、一番妖怪を表しにくいのが文字だったりするんでしょうけども。とりあえず僕はそういうことをやっていまして、結論めいたことは全然言えないんですが、そういう妖怪をとにかく文字で表していきたい気持ちが強くあるのは、…そういうところがあるということです。



足立／　まぁ、我々、第二次情報にいつも囲まれていまして息が詰まりそうなんですけども、それと第一次情報といいますか自分の主観的な解見、それとのギャップを感じているんですが、そこに妖怪の余地があると非常に示唆深い御指摘だったと思います。次にですね、何でも知っていらっしゃる荒俣さんですけども、荒俣さんのごく一時的なですね、体験的な妖怪体験っていうのを皆様多くの方がご存じないと思いますので、この機会に是非伺いたいと思います。

荒俣／　妖怪体験ですか？　僕は非常に頭が固いんです。で、妖怪が好きなんですけども、向こうが嫌っているんで、中々来てくれなかった。で、この三十年間くらい妖怪が来て欲しいなぁとずっと祈りながらも頭が固い為に来なかったんです。最近やっと分かったんですね、どうやって来させるか。で、これはもう皆さん、私と同じ様に実践絶対出来ますから覚えといて下さい。自分が妖怪になるのが一番早いんです。【会場・笑】水木さんもそれを見抜いていて、昔からあいつはよく気が付いたと言っていたんですが、実は本当だった。【会場・笑】　妖怪になれば、これは全部の妖怪と付き合えるというのが三十年の努力の結果、やっと分かったんです。で、どうやってそうなったかと言うと、よく考えてみると僕も妖怪好きでした。今、京極さんがおっしゃった様に文献なんか見てた。よく考えるところは、女湯を節穴から覗いているようなもんで、何か面白いことがないかなぁと思って覗いてただけなんです。こんなことやってると、男湯の方からは、あいつ覗いてると水引っ掛けられますし、下手すると警察に連れて行かれちゃいます。女湯の方からは覗かれて、「イヤね、あの人スケベ」っていうことになるんで、どっちにしても駄目なんです、結局。あの…客観的にね、やっぱり。あるいは全く妖怪の世界にどっぷり信じ込むっていうのも駄目で。結局どうするかと言うと自分が妖怪になって相手と付き合う。つまり、銭湯で言えば混浴ですね。混浴するのが一番いい。

で、混浴の仕方っていうのに、そこまでくるのにやっぱり三段階くらいかかりました。で、妖怪だけに三怪談なんですね（笑）。第一段階で皆小さな頃は結局そうなんですけども、色々寝ている時に天井の上なんか見てますと節穴が見える。こうじぃっと見ているうちにね、目玉に見えてくる。目玉に見えてきた段階で、我々の神経、あるいは精神というのはちょっと違うと思うんだよね。本当は節穴なんだけども、目玉に見えてきた時にまず第一段階はじめたものなんですねぇ。つまり、誤って間違えて目玉に見えたところから妖怪世界に入れるんです。つまり誤解するわけなんです。これ、最初の段階は、どういう妖怪が出てくるかというと《誤解》っていう妖怪なんです。これが第一段階。そうするとさっきも話があっ

た通り、我々の理性とそれからもっと本質的なものが段々・・・。その段階で誤解ができるようになると、次どうするかと言うと、小説だとか漫画だとか音楽に行くんですね。一番最近で流行っているのは《お化け屋敷》。あのお化け屋敷というのは、まさにそういうシステムを作って、人間が人工的なお化けの空間を作って皆そん中に入れちゃう。最初、これ作りもんじゃんと言っているうちに、段々段々それがどうも作り物じゃなくなってって、人間が作ったのは分かっているんだけど、そのうち本気になってくる。これは《偽怪》って言って、つまり偽りの怪なんですけども、そのうちに偽りが本物に段々すり替わってきちゃう。だから、水木さんの〈ゲゲゲの鬼太郎〉だとか、京極さんの小説を読んでいるうちに、これはもちろん《偽怪》の怪なんだけど、これを沢山読んでてご覧なさい。きっとどっかで妖怪と擦れ違ってくるから。これが第二段階に到達すると、いよいよ本物の怪と巡り会えるんですね。これは僕もここまで来るのに三十年ぐらいかかりました。え…本物の妖怪と巡り会える。で、これが《ホンマカイ》って（笑）。怪がつくんで、ホンマカイなんで、疑問形になっちゃうんですが、疑問形になった所がさっきの混浴状態なんで、相手が誰だか分かんないんだけど下手すると、かつがれる系のもしかしたら相手は本物の妖怪かも知れない。で、そういう非常に入り組んだ状態の精神構造と言うのが、我々が実はどうも本質的に持っていて、ある意味ものすごく理性的に働くけど、例えば熱が高かったり、魘されてたりしている時は、妖怪なんかブンブン見えるわけです。その二つの状態は、我々の中で常に組み込まれているんだ　ということにやっと気が付きました。水木さんの今の所、内弟子に四十過ぎてなって。で、これ一番面白いのが、さっき言った山田先生の音楽の話の時のそういう状態、つまり混浴状態になりたければ、南方の島々に行くのが一番いいですね。で、そこの真っ暗な土地で向こうの人々の音楽や儀式に参加すれば、これどんな頭の固い人でも、だいたいその場でおかしくなる。えーつまり、半信半疑の状態、混浴に入れます。これをまず皆さんに三十年の結論として、紹介したいと思います。

足立／　非常に分かりやすい話を有難うございました。【会場・笑】　えーっと、山田さんは先程ですねぇ、ニューギニアの非常に豊かな精霊文化について御紹介頂いたのですが、何か付け加えておくことは？



山田／　私は、民族音楽等を調べて十八年くらいになるんですけど、段々その間に私もおかしくなってきたのかどうかは、わかりませんけれども…。精霊たちとの存在というのはね、私自身とって替われないリアルなものになってきたというのがあると思うんですね。で、ワヘイの人たちにとってなんですけど、精霊というものは圧倒的な力を持っていると解釈しているんですね。人間がコントロールできない、人間が太刀打ちできない力を持ってますね。で、ワヘイの人たちっていうのは、こう傷ついたり、病気になったり、まぁあるいは死んでしまったりすると、必ず精霊のせいにするんです。これはよく考えて見ますとある意味で合理的なというか、納得しやすい考え方なんです。って、いつも私たちも病気になったりしますけど、どうして病気にかかるのか。ある人は非常に元気なのに、ある人はよく病気にかかったりするわけですね。で、まぁ亡くなったりするという。そういう境っていうか、そういうチャンスの問題っていうのは、これは実際説明できないわけですよね。ところが、ワヘイの人たちはそれを見事にと言いますか、全て精霊の所為に割り切って考えて。え－、ある意味人間の生活と言いますか、生存に向けて意味付けをしてますよね。で、あと一つ、私としては音や音楽をやっておりますと、その精霊や妖怪っていうのは目に見えないということで、音を通して感じるという機会というのが非常に多いワケですよ。こういうのは非常に大切なんですが。最近といいますか、昨年の十月、水木先生と御一緒して、ワヘイの村に行ったんですけどね。その時、非常に驚いたのは、水木先生は本を何冊か持って行って、それをワヘイの人に見せてですね、彼らにこういう精霊はいるかと質問をしたわけですよ。そしたらもう、次から次に、これもいる、これもいるって、次から次に指摘するわけですね。色々こう髪が長かったり、こう鼻が非常に巨大だったり、いろいろなカタチをしていますけれども。これは彼ら自身は偏った考えをしていまして、音を通して精霊を感じてるんだと強く思っていたわけですね。それはそうなんでしょうけども、それに加えて彼らは視覚的な、そういうイメージとしても、ちゃんと持っているんだなぁと思ったわけで、これは非常に貴重な経験だったんですけど。それをどういう風にしてまぁ、目に見えないと言いますけれど、何かしらのカタチでイメージというものを持っている。というのをちょっと付け加えさせて頂きました。

足立／　世界・・、国境を越えるのは音楽だとか、踊りだとかだけ言われてきたんですが、カタチでもですね。…僕も非常に吃驚したことがあるんですけども、水木先生の絵を見せると、今迄で初めて見た人でもすぐにわかるという所がありますね。それは非常に不思議だと思いました。それではですね、一通り皆さん、一言

ずつ出会いと魅力をお話頂きましたので、これからフリーディスカッションに入りたいと思います。それで、口開きとしてですね、水木先生に、一般の方はそのお化け・妖怪・精霊・神様、みんなバラバラに考えてる人もいるし、ごっちゃに考えてる人もいると思うんですね。そこら辺の違いと同一性みたいなところから、先生一言。…まず、妖怪の方々とはどういう関係にあるのでしょう。

水木／　あの妖怪っていうのはお化けですよね。あの今の水木ロードにあるような奴ですけども、あれはその愛敬があるっていうか、愛敬があってみんな喜ぶという。これはなんだ・・あれです、妖怪の初歩ですよね。愛敬から入っていくんですよ。それで段々といろんなことが分かっていくワケですけども。これは余談ですけども、水木大先生は柔道でいうと七段・八段くらいで、赤い帯つけちょるね。…そのだいたいねぇ、三段階くらいまではわかるねぇ。それから四段階までに十年くらいかかったなぁ。で、今はもう…あれだ、山田さんなんかとニューギニアへ行ってねぇ、お化けの御大の《ウハ》っていう精霊を、…そこに行けっていう場合ですね、山田さんまで襲われて、青ざめて行かないんですよ。酋長も行かないって言うし、もう1メートルでもいいから入れって言っても、なかなか入らないんです。で、まぁ二十センチほど入れて貰ったんですけど、そこは何も見えないですよねぇ、昼は。で、夜、夢に現われてねぇ《ウハ》が。あぁもう、すごいもんでしたね、丸い顔したワニ（鬼？）みたいなもんですよ。それがねぇ、ものすごく細かく見えるんですよ。手でこうやるくらいにねぇ。あれには吃驚したですよ。私は明くる日それを絵に描いてね、長老に見せたんですよ。いやぁ、これは《ウハ》だって、真面目な顔して。…間違いなく夢に現われたんですよ。という風に柔道でいうと八段くらいになると、そういうこの妖怪の方から見せてくるんですが。まぁねぇ、このくらいになると世の中が楽しいですね。本当。本当に楽しい。それで、今回もこの三日後に私、ウンナンに行きますけどもね、ウンナンで妖怪を千集めたという奇妙な男がおってね、ですぐさまその妖怪の指令でしょうね、その人間は私のところに来て現われた。…で、私も行くことになったのですけども、そういう風に柔道八段くらいになると、いろんなことが出来るもんだなぁと思ってね。これは余談ですけども。先程のその本論に入りますけども、妖怪とか精霊とか祖霊とか心霊とか色々いますけども、これはその目に見えないものなんですよ。目に見えない存在ですよ。んで、神様とか言いますけど、結局カタチじゃないワケですから、だから妖怪もまた神様も同じような種族なんですよ。この妖怪から入っていって、そういう不思議なものを判るようになるといいと思いますよ。…そのすなわち、

出雲風土記の妖怪三九九がですね、わかるはずなんだけども。この長い間人間はその妙な知識を身につけた為に、このなんていうかなぁ、音とかカタチでその精霊を傍受する通信機能を失ったのかなぁ。それでその掴みにくくなってしまったわけですよ。そこで、そのまぁ水木さんのような人にくっついていろいろさせると思うんですけども。妖怪から入ってこの〈八百万の神〉まで全部解明するっていうのが、私のこの本来の目的なんですけども、それで自然に世界妖怪協会なるものが出来たワケですけども、そういう風に目に見えない存在っていうのは非常に大きくて広いワケですよね。これは何も私一人が言っとるワケでなくて、あのウォーレスもね、あのダーウィンと一緒に進化論を発見したウォーレスも、生物の進化にはですね、人間以外のいろんな我々の目に見えるもの以外のものの助力がないと進化はしないってことをあのウォーレスは言ってるんです。前から。だからあの気付いてる人は気付いてるわけですよ。ただ今迄はね、そういうことに人は注目しなかったですけど。これからはこの二十一世紀はですね、そのそういうものに目が向く時代だと思うんですよ。この前もあのコリン・ウィルソンさんも同じ意見でした。何故かと言うと、ウィルソンさんは私を奇妙な人間だと思っているらしくてね。いつもこうニヤニヤニヤニヤしながらその・・見とるんですわ。で、私は《世界妖怪大全》をやったらね、ものすごく喜んで。大栄博物館を見て驚いたけど、その次に驚いたのは《世界妖怪大全》ですとこう言っとるんですわ。だからあんた、これからはですね、あのゲラゲラ笑う時代じゃなくて、これからは妖怪という…真剣にこう不思議なものを発見する一つの道としてですね、誰もがこう真面目に研究するというですね、時代がくるんじゃないかと思っとるんです。

足立／　今の話を受けて、中々難しいでしょうけども、えと先程途中までしかお話にならなかった・・・・。

多田／　失敗しましたね。失敗しました（笑）。

足立／　どうぞ。



多田／　あの、実際に目撃されてるという妖怪がありまして、《トイレの花子さん》何かもその類いなんだと思うんですけど。《トイレの花子さん》というのは、最初〈三番目の花子さん〉とか〈三時の花子〉さんて言われてまして、それは昭和二十二、三年頃から何か知られるようになったらしいんですけど。で、その頃からは『赤い紙青い紙』というのも同時に知られてまして。トイレって、昔はぼっとんトイレといってようするに水洗じゃなくて、くみ取り式でやっぱりトイレを覗くと真っ暗闇でその穴を覗くと何も見えないんですけども、昼間でも。この穴の向こうに、…そのままトイレの向こう側に世界が……真っ暗な世界で。そこから、こう手が出てきたりとかとか、声がしたりとかするって言われてまして。で、今でもこうマスコミでももて囃されていますけど、実際に《トイレの花子さん》を見たっていう小学生がいっぱいいるんですけども。で、本当にそういう、もしかしたら〈霊〉みたいなのがいるんじゃないか。で、大人には見えないかも知れないけど、子供には見えるかも知れない。何故だろうと調べてみまして。で、戦前にはトイレの神様を祀るという信仰があったんですけども、戦後になっちゃうと、なんか近代化というか、そういうトイレの神様を祀るということを止めてしまいまして。で、それがそのままもしかしたら、学校に残っているのではないかと気がついて、で、さんざん調べてみたんですけども。そしたらトイレの神様には、花と人形を備えるという儀式みたいなものをしていたらしくて、今、トイレの中で、花を飾ったりするのも、その名残らしいんですよ。で、その花と花子さんと云う名前が結びつくんじゃないかと言うことと。あと、人形というのが、神様として飾るとか。あと着物を着せるんですよ、赤い着物。で、トイレの怪談に『赤いチャンチャンコ』と『赤い紙・白い紙』という人形を作って置くとか、神というのがありまして、ひょっとしてそこに繋がりがあるんじゃないかと今調べてるんですけど。で、トイレの神様は中国名で《紫姑神：シコシン》という名前で。で、やっぱりトイレの妖怪に『むらさきババア』というのがいまして、きっと何か深い繋がりがあるんじゃやないかと。まぁ、捜索中なんですけども。で、神様も妖怪も、霊としては、深い繋がりがあると思います。

足立／　えー、今の話、トイレの研究を続けてらっしゃるわけですね。【会場・笑】　その繋がりでいいですけども、どうですかありますか？　トイレというのは、やっぱり普通の我々の住んでいる世界とは違う異界だということなんでしょうか。

荒俣／　あの、日本のトイレというのは、ヨーロッパのトイレと、アジアのトイレと決定的に違うのは、日本のトイレとは、だいたいもう最初からしまっている。

だからなんかいるわけですよ、すでに。だから入る時には、トントンと叩くしね。トイレの中で[redacted]しちゃいけないとか。中に元々いるという状態なんですよ、妖怪かなんかいるだろうという。ヨーロッパの様式トイレなんかは最初から開いていますから、あれは誰もいない。それだけトイレの違いっていうのは凄く面白い。だいたいヨーロッパには元々トイレなどいう部屋はなかったですからねぇ。日本にはかなり古くからそれがあるわけで、そういう様な問題からも随分発生しているんじゃないかと。という風に思いますけどね。

足立／　雪隠（せっちん）とか、厠（かわや）とか、という呼び方にも関係があるんですかねぇ？

荒俣／　雪隠、厠・・・ありますね。これはもう、厠の場合かなりラジカルなものがあって、かなり力を持った子供を産む場合なんかには、お母さんが厠に入って、で精霊？　を持って出てくるというケースが随分ありますね。雪隠というのは、あれは多分《雪隠：セツイン》で、仏教とか、禅宗とかの関係の名前に繋がっているんじゃないかと。禅・禅寺なんかからきている。トイレのそういうだいたいの作法は基本的には、おそらく、そういうものが色々いきかって、日本のトイレの空間に、そういう不思議なものが出来てくるんじゃないでしょうか。



足立／　今度からトイレに入る時は、なんか厳粛な感じになりますね。いろいろ謎がまだ残っているかも知れない。

荒俣／　だから昔は大変だったんです、トイレに入るのは。結構全部、あらゆる作法をわかってからではないと入れなかった。これぐらい結構大変なことですから、夢々トイレだからといって、馬鹿にしてはいけないことなんですね。

足立／　先生トイレ方面の…。（水木先生にむかって）

水木／　糞の…【会場笑い】糞の話より、天使の話をしたらどうですか。糞の話より、もうちょっといい話を。あの境港は昔、《小豆とぎ》がおったが。大港神社のところに。あの…、《小豆とぎ》がいることはオレは知らなかったけど、境港の荒木のばあさんが知っておられた。《小豆とぎ》が境港に…。それで唄を歌ってたって。井戸におったたって。で、《小豆とぎ》っていうのは全国にいるんですね。て、言うかねー、結局、妖怪というのはカタチは見えないから音ですよ。結局。シヨキシヨキという音。その音が《小豆とぎ》と判断されるわけですよ。だから、妖怪はカタチが見えないから、たまに幽霊なんかを見る人はおるけども、私なんかは一回も妖怪を見たことはないですよ。だからカタチですよ、カタチで妖怪をあれするから。…阿波・徳島なんて全部狸ですよ。《ぬりかべ》なんて《つい立て狸》って言うし。で、普通の[redacted]の狸とかね、なんでも狸で解決する。見えないから。つまり音ですよ。だからポルターガイストで全部解決できる。って言うか、妖怪は全部解決できますよ。ですから霊ですね・・・。

荒俣／　目に見えないいろんな波動とかをうけて・・・

水木／　そう長生きしとるとね、若い時に気付かなかったことに、色々気付きますよ。すなわち、見えぬものが見えるんですが。若い時は見えない物も。その代わり、まぁ時間が経つのがちょっと早いっていうのはありますけどね。それで全て、あのー老人の目のことを言うのはね、ようわからないな。【会場・笑】老人になるとわかる。…その時間がね、短く感じますよ。不思議なことなんかも早く察知できるんです。でまぁ、一部ボケますけどね。【会場・笑】ボケたからって・・になった訳じゃない。本当は賢いんですよ。

荒俣／　ボケが重要なんですよね。

水木／　ボケがじゅうようなんです。それをやっぱりよく気にして、若い人は尊敬しないといかん。・・・ゲラゲラ笑ってね、しまうから、それにまた今の教育も唯物論的でしょう。物を創ることを大事としとるから、そのようなことで霊的なことをですね、喜んでこう教えるっていうことは余りなかったですからね。まぁ、その次、荒俣さん喋って・・・【会場・笑】

荒俣／　水木さんを見てますとね、非常にこれまたもう結論が出ちゃうんですけども。やっぱり、さっきも言いましたように、妖怪のことって、やっぱり妖怪本人に聞いた方が早いっていうのが（笑）。っていうのが

結論なんですねぇ。これねぇ、水木さんの漫画読んで、よくわかったんですが。…あのやっぱり本当かどうかわからないけども、妖怪に直接聞いてるでしょう？話を・・・。

水木／　そうそう。それはありますね。

荒俣／　これねぇ、すごい人がいてねぇ、水木さんの大お師匠さんがいるというのが最近わかったんですけども、江戸の末に《平田篤胤》という人がいてね。この人何やったかというと、漫画は描いてなかったんですが。まぁ小説に近いもんは書いてたんですけども。何やったかというと、妖怪の研究。妖怪に聞いちゃったんですね、直接。で、これが僕非常に驚きました。だから、今出た足立さんの疑問なんていうものは見事に答えてる。直接聞いてますから。例えば、妖怪は目に見えない。でもいろんなものには出てくる。どうして姿を出せるのかと聞いて、妖怪がどういう風に答えたかと言うと、『我々目に見えないよ。目に見えないんだけども、人間がイメージで思ったところには化けることが出来る。人間が思った事へは我々は化けられる』と。だから、仏様の妖怪は化けて出られる。しかし、神様は出られない。何故かっていうと、日本は皆信じられないでしょうけども、神のイメージって全くなかったんです。日本人は。つい最近なんですね、神様ってどんな姿をしているかっていうのを考えるようになったのは。ほとんど皆イメージ浮かばないでしょう。仏様ならわかるけれども。だから、妖怪もみなイメージがないものには、私たちも出来ないと直接言っているんですね。で、じゃあ御飯なんか何食べるんですかって言ったら、『うん。食べなくてもいいんだけど、皆がお供えを置いてくれると悪いから一応食べると。ときどきお腹が悪くなったりするので、煮炊きもちゃんとやるよ』と。でも妖怪は鍋もってないからどうすんの？　って聞くと、『いや、鍋は普通の民家から持ってきて普通に使うんだ』と。人間は妖怪が鍋を持って行っても、鍋のカタチだけは残っているから、だから鍋使ってないと思ってるんだけど。実は、鍋の実体は妖怪が持って行って、それで煮炊きしている。妖怪は裸なんですか？　と聞くと、『妖怪は裸なんだよ。でも時々皆の前に出るときは服を着る』。で、その服はどこから持ってくるんですか？　と言ったら、『昔、生前・・』妖怪に生前があるっていうのもあれですが・・、『生前着てたものをそのまま着て出ている』と。で、さっきも出ましたが、お正月、妖怪はお酒を飲んだりお餅食べたりするんですか？　と聞くと『食べる』って言うんで、こうやって直接聞いちゃった人がいるんですね。これ僕は非常にショックでしてね。んー、水木さんの〈ゲゲゲの鬼太郎〉も、もしかしたらね…。水木さんは老人になると段々わかって見

えてくると言いましたが、水木さんも直接聞ける段階になってきているんじゃないかな？

水木／　そうですねぇ（笑）。あのなんていうかな、言葉でも音でも、なんでもないこの見えるっていうか、感じるっていうのかなぁ。それでですね、世界じゅう回っても、だいたい5％くらい見ればだいたいわかっちゃうんです。それが面白くてフィールドワークをやたらにするんです。それが面白くてたまらんわけですよ。だけど余り人に喋るとおかしいと思われるんで、あまり喋らんようにしてるんですけど。本人は、やっぱり楽しくてたまらんのですよ。あの京極さんなんかはそういうのはないですか？

あのなんとなく妖怪的なあれを感じて、あの嬉しくなるとか。そのへんは？

京極／　あるんですけどね。あの僕の場合直接っていうのはやっぱりないんですよ。で、先程荒俣先生が、三段階とおっしゃったんですけど。僕は二段階くらいで止まってるんですが。ただ二段階目で止まってるんですけど、三段階目的な体験はですね、自分の中で作り出しちゃってるんですね。実際、実体験はないんですけども。だからあの先生みたいな方とお付き合いするということがですね。実際に、妖怪と付き合うという・・・【会場・笑】

水木／　たしかにね、あの段階はありますよ。たしかにあります。私もあの一段階・二段階あたりでね、…二段階か三段階かあたりで、十年か十五年止まってたんです。あ－たいしたもんじゃないな、これは幻想、たんなる幻想じゃないかって思ったりして、あんまり元気なかったです。で、妖怪がいないとなると元気がなくなるワケですねぇ。おかしいなぁと思っているうちに、そのなんの目的もなく海外をうろつくようになったんです。それが逆によかったんですよ。それで、一段階進めたんですね。四段階に入るところを、五、六七は、もうパッとして・・【会場・笑】

周囲（荒俣・京極他）／　四段階もあるんですか？

水木／　・・いやありますよ。あのまだ体験しない人はゲラゲラ笑うわけだけど、体験してる私なんかは厳粛な気持ちですよねぇ。つまり、妖怪一つでも、例えばその石の中に入る妖怪なんていうのがいるんですが、アボリジニーとかねぇ。石の中に入る妖怪といえば日本では《こそこそ岩》ぐらいなもんでしょう。「こそこそ」と音をさせるわけですよ。であの、石の中に入るってことはですねぇ、人間では考えられないワケですよ。よく考えて見ると《霊》になればカタチはないから、石の中だって、なんだって、入れるわけですよ。でアボリジニーはその霊になった、霊の状態のものを

指しているわけですよ。その石に入るお化けというのは、それで石の中に入ってそのお化けは女だったら、男を引きずり込むんですよ。そういうお化けがいるんです。だからよく考えると、霊になれば入れる。というわけですよ。だからお化け一つでもかなりの年月がかかって。よく覚えといて、これなんだろうなって思いながら世界中をうろつき回れば、いつかは解決できるわけですよ。

足立／　そうですねぇ。[redacted]丸山遺跡とか色々思いもがけぬ豊かな縄文時代のあれが出現しまして、案外あそこもですね霊の世界が濃かったんじゃないかと。で、先生の作品の中にも古い古代の時代とか、石器時代とかを描いたものがありますよねぇ。で、我々まぁ、普通の人というかですね、あんまり霊の世界に入りこんでない人から見るとですね、やはりニューギニアの様々なこう彫刻みたいな物も、アフリカの物もですね、それから縄文時代のうんと力の入った土器だとかですねぇ、使い道のわからない土偶なんか見ると、やはり数千年にわたって、そういう精霊文化が支配していたんだというのを、非常に強く感じるんですけども。そこら辺との違いをちょっとどなたか発言をある方いらっしゃいますか？　古代の精霊文化でもいいんですが？

京極／　さきほど先生、例えば《天狗だおし》とか音の妖怪をポルターガイストで解決できるとおっしゃったんですが、そういう風に言ってしまうと、霊っていうのは妖怪じゃないんですよ。それは妖怪は霊なんですけど、霊だと言うのはいいんですけども、霊と言ってしまった段階では妖怪にはならないんですね。そのわけのわからない認識できないものを、各文化の人たちや、あるいはいろんな世界の各地の文化が発生した段階で、なんとか理解しようとして、説明しようとする。で、いろんな絵にしたり、カタチにしたり、名前をつけたりする。その段階で霊が妖怪に変るんですよ。そういう風に認識できると思うんですね。だから例えば、《小豆あらい》も《小豆ばばぁ》も同じ、現象としては同じことですよね。でも妖怪としては分けるべきだと思うんです。だから、妖怪が面白いというのは、そこに生きている人たちの文化だとか、あるいは個人の妄想の場合もあるんですけどね、誤解とか勘違いとかそういうこともあると思うんですが、そういうのを全部ひっくるめて人の世に出てきたものを妖怪で・・。それはすごく面白い。ただ、その妖怪が何故そうしたことをするのかとか、そうした現象が起きるのとか、そういうことを考えるとまた別な次元の話になると思うんですけど。精霊信仰というのは、妖怪に至る前の段階のものだと僕は思っているんですね。ええ。だから、その根は同じですし、同じものですが、やはり時

代が下ってきて、文化がかなり爛熟してきた段階で、この精霊たちは妖怪という名を与えられて、あるいは神が零落したという言い方も出来るかも知れませんけれども。で、今のこの多くの妖怪たちが生まれてきたんじゃないかと、僕は思うんです。

水木／　いや、このあれですよ。ようするに霊って言ってもね、霊って言葉ほど、この広範囲な意味を含んでいる言葉はないわけです。この私の場合は広く霊を捕えていて、ですから小さい意味の霊になってくると色々問題があるわけですけども。大きな意味の霊っていうのは全部入っちゃうと思うんですよ。神とかもみんな入れちゃうんですね。そういう考え方から行くと、その妖怪というのはですね、あのだいたい江戸時代の、あるいはその前の絵巻物でもみんな愛敬のあるものですよねぇ。しかも面白い。そういうようなことから、人間は入っていってですね、目に見えない方々をですね、妖怪とか精霊とか心霊とか祖霊とか、そういった様なものの世界を認識していく上での第一段階が、妖怪じゃないかなと思ってます。妖怪とか、幽霊ね。それによって相手側は人間に目をむけさせようとしてね、誘ってるんじゃないかと私は思うんですよねぇ。それで、もっとこの未知の広い世界に目を向けるように、人間に警告を発してるんじゃないかなぁと思いますよ。小豆の音をさせたりなんかしてね、関心を払うようにしてね。それで水木さんみたいに、それを絵にして面白がらせてね、そうしてそのああいう水木殿みたいなところのものを作って面白がらせて、その、目を向けようとしとんじゃないかと思うんです。精霊とか、そういう目に見えないもの、神々だとかですね。だからその第一段階が私はこの妖怪じゃないかなと思っているわけです。

足立／　こないだですね、水木先生と荒俣さんが御出演なさった《大江戸妖怪絵巻》ですか。あれだとその社会が爛熟して、経済的基盤が高いのにもかかわらず、表現手段が抑制されたり　ですね、様々な規制があると、庶民のその苛立ちとかですね、鬱憤みたいなものがカタチを変えて、妖怪と仮託をして、それで文化の発生から幕末に至っての爆発的な妖怪絵画、あるいは信仰のブームがあったという風にとられるんですけども。そこらへんは荒俣さん、それでいいんでしょうかねぇ。

荒俣／　あれはですねぇ、嘘です。嘘って言うと怒られるけど、NHKが作ったストーリーですね。【会場拍手・笑】実はあれ4時間くらい収録したんですが…

水木／　7時間だよ。

荒俣／　7時間でしたっけ。で、水木さんと二人で何をやったかと言うと、妖怪は面白いねーという、どうしてこんなものが世の中にいるんだろねーという話を、とうとうとやっていたら、あの途中で向こうのディレクターが怒りだしまして。『あの、あんた達ねぇ、これは歴史の番組なんだから歴史の話にして下さい』って。で、我々は歴史にはなんにも興味がないもんでって言ったら、非常に困るって。『じゃ、私たちがストーリーをあげますから』って言うので、ああいう風になってしまったので（笑）。あの今、京極さんがおっしゃったように、僕も冒頭でちょっと言ったんですけども、妖怪っていうのは人間なれるんですよ。それは本当になるならないは別として、我々は妖怪に多分なることが出来る。水木さんもその段階を経たと思うんで。で、そういう風になった時に考える事とそれから更に水木さん〈第四段階〉って言いましたけど、霊になると、もう本当に霊になっちゃいますから、我々の目の前から消えちゃうんですよ（笑）。そこんところがね、非常に難しいんで。で、妖怪は半分現実の問題であり、半分霊の問題であり、調度入り組んでいる。で、そのところで多分妖怪というのは《妖怪人類学》という名前にしておくのが、一番その最初のとば口では、アプローチがしやすいんじゃないかなと思ってるんですね。で、ところがね、あのＮＨＫの場合では、そういう話をしたんですね、実は。今話したような。

そしたら『バカヤロウ』って言われたんですね（笑）。で、そのようなことではなく、幕府がぎゅうぎゅうと締めるんで、皆がしょうがないから、あっ調度昔、妖怪っていうのが在ったから、あぁいうお化けに仮託して、我々の気持ちを代弁しましょうねっていうような歴史の話になっちゃったんですけども。本当は江戸時代の人々のセンスっていうのは、水木さんが達した段階まではいかないかも知れないけど、少なくとも第二段階から第三段階はいってるんですよ。で、このね、いってたその程度の高さって言うんですかね、そのところを理解させようとしたんですけど、遂にあの番組は一方的に（笑）あぁなってしまって、っていうのが真実だと思うんで、鵜呑みにしない方がいいですよ。
【会場・笑】

水木／　あれはあの、いろんな重要なことを、私は始めに、2～3時間前に来てましたから喋ったんですよ。そしたら全部カットされてねぇ（笑）

荒俣／　いや私らは、妖怪見えますねって話をしたんですけどね、4時間。したら怒ったんです、向こうが。

水木／　カットされてねぇ、ねじ曲げられてたわけですよ。結局向こうは・・日本史という名前だから、それに見合うような内容にしたいっていう事だったんで

すけど、何しろシナリオは当日その場で…読む時間もなかったけども。結局、郷土日本史の範囲内ってことで、そういこの高度で神秘的なことは一切カットされてしまったんですよ。

足立／　たいへん判りやすい番組だったんですがねぇ、あれは。林さんはどうですか？　なんか発言が少ないようですけども。

水木／　林さん喋ったらどうですか？【会場・笑】林さんはどういうわけか、東南アジアが好きなんですよ。東南アジアの女性も好きなんですけどね。・・そのなんてったか、東南アジアの林で会った人なんかねえ、もの凄く真面目な顔して妖怪の話をするからね、こちらの方で吃驚します。ねっ、林さん。

林／　あの先生と私は機会がありまして、昨日もチラッと言いましたけど。先生と一緒にボルネオに旅行することがありまして、あの今先生がおっしゃったことは、例えばこのものすごく髭をはやした村の長老みたいな人がですね、まぁ妖怪の話を、要するに世の中の一番重要なことであるって風に話して、すごくのめり込んでくる。そう、その感じ自体が日本と全然違うわけですよね。で、さっきから話を聞いてますして、妖怪の魅力っていうか、僕自身のことを言いますと、今の日本の、今の生活の感じっていうのは、なんて言いますか見える風景がどんどんどんどん小さくなってきていると言いますか。で、届く言葉の距離がどんどんどんどん短くなってきているっていうような感じがするんですね。で、水木先生の妖怪の絵を見てまして、ようするに妖怪を見ることで、こう風景がものすごく豊かに見えてくるわけです。で、見える風景が小さくなってくるというのを具体的に言いますと、ようするに、近い所しか目が届かなくなってきてる。で、妖怪のいるという世界っていうのは、とてもあの近い所から遠い所まで、全部繋がってなだらかに見えるわけですね。で、例えば森とかジャングルっていう所は、非常に妖怪とか多いですが、でも日本でもそうですけども、ボルネオとか、南方の方へ行くと、無茶苦茶多いです。で、無茶苦茶その妖怪の話を聞いたり、こういう音がしたっていう話を聞いて、それで森を見るとその森の風景っていうのは、まるっきり違って見えてくるわけですよね。でまぁそういうのを見てしまうと、例えば日本へ帰ってきて、どっかの都会の緑地みたいな所は、もういるいないじゃなくて、ただ木が植わってるだけで森ではないわけです。で、そういう風に言うと、妖怪というよくわかんないモノを仮定して、わざわざ豊かに風景を見ようという、このなんか人為的な努力のような気がするかも知れないけど、それは全く逆で、我々が目に見えないけども、それを目に見えるかのよ

うに、例えばお金の貨幣の価値ですとか、法律ですとか、一日が二十四時間ですとか、そういう仮定しているものはものすごく多いわけです。そういうものにものすごく縛られているわけなんですけども、まぁ東南アジアの妖怪の話を聞いて、その妖怪が出る場所を見て、その風景を見るということで、その『怖さ』ってのは、多分その今我々が日本に暮らしているものを、さっき京極さんも言いましたけど、非常に客観的に思ってるものが揺らがされる感じで『怖い』と思うんですけど、そういう混浴状態になることで風景がとても豊かになってくる。で、そういう所でみて、豊かになった風景っていうのは、それは一種の風景を見る能力なので、日本に帰ってきても日本の風景が豊かに見えてくる訳ですね。で、妖怪の魅力の一つっていうのに、そうやっていろんな風景を色々豊かに見る能力がついてくるっていうのがある気がしますね。

水木／　あの、多田さんは、あれですよね。妖怪学・心理学とかいろんな…植物学まで導入するわけですか？　あらゆる学を導入して、妖怪を見極めるということをやっておられるのですが、これはまた実に大きな、一生涯かかるような学問ではないかと思うんですが。どうですかかね？　妖怪の正体はわかるんですかかね？

多田／　あの、荒俣先生も博物学をやってらっしゃいまして。ようするに古い博物学だと、妖怪とか幻獣とか、こう動物園にいないような、絶滅してしまったのかも知れないですけども、そういうわけのわかんない動物が結構多いわけですよね。《山海経》っていう紀元前の中国の文献になっちゃうと、全部妖怪なんで、でも名前を見ると〈蝙蝠〉だったり〈山椒魚〉だったり、実際いる動物が混じっているんですよね。ラクダとか。で、それがだいたい三分の一くらい今でも実在する動物の名前で、三分の二くらいが神様だったり、妖怪だったりしてて。で、段々段々時代がこう現在になってくると、少しずつ少しずつ妖怪の名前が削られてきて、結局今ある動物図鑑を抱えてる。昔は九十九％妖怪だったかも知れないわけですよ。で、その辺どうでしょうか荒俣先生。

荒俣／　なぜ僕に・・・（笑）。

多田／　先生の作った博物学の本の中で、妖怪が登場してますよね。その動物と妖怪を分けるってことが、博物学の中で意味がないわけないですよね。同じ土俵で上がってて。で、実際〈人魚のミイラ〉とか、〈河童のミイラ〉とか、〈天狗のミイラ〉とかあるわけで、それ今だに完全に決着がついてないわけですよね。河童が本当に百％いないって言えないんですよね。実際津島でも河童を見たっていう目撃例があるし、足跡も

見つかってるし、その辺今だに未解決。実際本当に未解決・・ツチノコでも結構見たっていう人多いし。

荒俣／　そういうのはね、《未知動物学》っていうのがあるんですよ。まぁ動物だけですけども。とりあえず昔から色々言われていて。現地の人々がこんな大きい猿のような人間がいたと云う目撃談か、頭の考え違いしかないようなものを本当に追い掛けようとしている人がいる。《未知動物学》といわれるグループがいて[redacted]とかがそうなんですが。その中に河童とかいろんなものが含まれているんですが、昔の博物学の面白さは、そういう《未知動物学》的な面白さもあるんですけども、もう一つ決定的に面白いのは、我々人間は、最初から全部知っていたというのが非常に明快に判る。で、地球のものを後から見つければ、似たようなものが出てきたなってことで一致はするけども、どうも頭の中で、みんな最初に出来ちゃっているんですよね。で、ほとんどの場合、組合せによって我々はこういう存在がいるに違いないと、調度自然のメンデレーエフの周期率表みたいなものが頭の中にポンッと入っていて、それから逸脱するものっていうのは、中々我々考え付かないっていうことがあって。その中にどうもピッタリおさまらない、間があちこちあいてますよね、現実的には見つかんないもんがあるから、そこのところをどう詰めようかという事で、一つはこう《未知動物学》のように探検するのと。もう一つは、我々の古い時代といいますかね、古い時代の中に、いろいろなものを探そうという要求があるみたいで。どうも今迄は、古いものをネタに使うとだいたい駄目だった。何故駄目かって言うと、古ければ古いほど厳密さや科学性がないってことになってた。だけど、あの正体がよくわかんないものについては、結構古いものの方が文献的に豊かだってことが分かって、で、それをやることによって逆に垣間見える要素って言いますか、そういうものが随分出てきているんじゃないかと。とにかくやってて我々が凄いなって思うのは、昔の人は見たことがないようなものを、よくこれだけ断定できるなっていうこと。もしかしたら、あらゆるものを水木さん風に見ていた可能性もあるんですね。そういうものが文献になってる。だから全部、ひょっとすると、《山海経》にしても何にしても〈ゲゲゲの鬼太郎〉と同じような立場での情報源かなって感じがするんですけどね。

水木／　あのー、おたくが書いた博物学図鑑には妖怪が入ってますね。だいたい博物学には、帰来、妖怪を入れなかったですよね。

荒俣／　・・入れませんでしたね。

水木／だけどあれには沢山妖怪が入ってますね。うん。あの学会から文句は出なかったですか？

荒俣／大変でしょう。ほとんど、ええ。

水木／うーん、大変なことですよ。

荒俣／しかし、博物学者が非常に偉かったのは、いないものについては作っちゃったんですね。やっぱこれはすごい。あのー、ミイラにしても、人魚にしても、河童にしても、十七世紀くらいが調度その擦違いの時なんですけども、もういないんじゃないかって。リンネとか、そういう…ま、頭の固い人々は、もういないんじゃないかって、この一言が今でいえば「お前古いよ」って言うのと同じで、「いないじゃないか」と、すごくこう断定されると、これ言われるとどうしょもなかった。

水木／で、この方はですね、7年前くらいだったか、『博物学図鑑』っていう、このくらいの大きさの本を五冊出されたんですよ。その五冊がねぇ全部絵で出来てるんですよ。その絵を全部集められたんですよ。非常に珍しいことですよ。ねぇ。【会場・笑】

荒俣／僕が水木さんのようだったら、集めないで自分で描いた方が早かったと思うんですが。それが出来なかったもんで集めたんですが。

水木／で、ヨーロッパとかアメリカの学会は評価しないんですか？　あれを。

荒俣／ほとんど評価しませんねぇ。【会場・笑】

水木／しかもいい本ですよ、あれ。

荒俣／やや救いなのはねぇ、今皆さん、先程私が「いないものはいない」と言うようにしようと。なんか証拠を出せっていうのが、今の我々の公議ですよね。で、妖怪もそうなんですけれども、実は博物学についても1個だけまだ可能性があるのがあって、見たっていうものを絵に描いた、どんなものだったかって絵に描いたものがある場合には、いちおうクエスチョンマークがついて、これはひょっとしたらいるかも知れないっていう。実物の標本がなくても、絵が残っていれば、ひょっとしたらっていう事が考えられている段階ですので、それはまだ完全には否定されてませんけど。《キマイラ》っていう頭が8個くらいある動物を見た絵が残っていれば、まだこれは完全には捨て去ってないっていうのが面白いところなんですね、博物学の。ただ博物学自体が、もう潰れてますから、意味がない

ということも出来ますけど。…絵でもＯＫなんです。

水木／　結局、文字よりは絵とか音楽の方が、そういういわゆる霊物を捕まえるのがね、…感じとったりするのにかえって便利な気がするんですよ。私は山田さんとワヘイに行って、ワヘイの村のですね、その生活とか、そのなんか霊がいるあれとかね、妖怪のいる所とかね、あの色々あるわけですけど。それをね、全部絵で示せばよくわかるんじゃないかと考えてるんですよね。

荒俣／　それはね、実は山田さん、僕も水木さんのニューギニアで〈妖怪大全〉を見たというおばさんが居たって言ってましたが、僕もやってみたんですよ。絵にはすごい力があるって思ったんですが、同じことをね、ジャマイカって所でして。あそこの原住民に見せたらなんの反応もなかったですねぇ。【会場・笑】これ非常に不思議だなぁと思ったのは、ニューギニアって、その霊を表現する面とかいろんなものが沢山あるじゃないですか、ところが今ジャマイカはレゲエしかないんですよ。つまり、妖怪の姿とかは伝承されていない所で。水木さんの絵を持っていっても全然反応がなかったんです。これも面白いですね。

水木／　ニューギニアでは大騒ぎですよ。

山田／　大騒ぎですね。

水木／　しかし山田さんは、ちょっとおっただけでも、全身が痒くなるような所で、よく長い間頑張って。そのねぇ、あのよく究極の霊能《ビッタガス》に達せられたんですよね。《ビッタガス》という言葉は世界の言葉にまだないわけでしょう。ねぇ。

山田／　ええ、まぁ非常に特殊な言葉ですけども…。

水木／　え、この普通唄ってる音楽の中に霊が入ってくるわけですよね。

山田／　そうですね。えー、先程ちょっと御紹介した歌声とか、竹笛の音というのが、霊がその竹笛とか人間の体の中に入って、声を発する、あるいは力を与えるという考え方ですね。

水木／　でね、あの竹と霊とは関係あると思うんですよ。〈バイニング族〉も竹の筒を二十とか三十集めて下に敷いて唄を歌いますけどね。竹に酔いますけど。それから、マレー半島の奥地の《バニソイの儀》の時も、竹と木なんですよ。それで皆1〜2時間もすると恍惚としますけどね。それで精霊を呼ぶんです。森から。その為に竹ですよね。それからワヘイも竹でしたね。

山田／　そうですねぇ。

水木／　それであの…一晩中やりますよね。

山田／　もう食物があれば二晩でも三晩でもしますよ。

水木／　それで《ビッタガス》がこないこともあるんですか？

山田／　ありますよ。その場合は竹笛を交換したりするんですよ。別の笛にして、それでこう何度かやり直すんです。

水木／　あのー、私、《ビッタガス》をちょっと見ただけで分かったのは、《バニソイの儀》の時に、そのそういう体験をしとったんですよ。私は同じ音楽を一週間、聞き続けたんですよね。精霊を呼ぶ音というのを録音しちゃいかんと言われると、余計録音したくてね、録音して盗って帰ってね、それであんた一週間続けて聞いた。これも大変なもんだけども。そうだなぁ、4・5日したらこう音の中にない音が出てくるんだなぁ。とっても気持ちのいい気分になって。木になったり、虫になったり。どうもそれが《ビッタガス》らしい、ということが後でわかった。あぁやっぱりそういう事もあるんだなぁと。これがすなわち「第七段階」の状態です。【会場・笑】…でも、普通の人に喋ってもね、膝を叩く人は少ないです。

足立／　えっとですね、部分的に段々盛り上がってきましたけれど、あの皆さんの中で今迄のお話で、大変満足された方、それからさっぱり判らなかった方、欲求不満な方、いらっしゃると思いますんで、ここで会場の方から質問を貰いたいと思います。できる限り、パネラーの先生方お答え頂きたいと思いますので。えー、マイク回しますので、どなたか。あんまりマニアックな質問は避けて頂けると助かりますが。どなたかいらっしゃいましたら挙手願います。

質問①男性／　ＮＨＫ見てたんですけども、こないだやってた。その時に百物語、あれの科学的な結論みたいな形で出ていたんですけども、あれは二人とも同じ意見なん　でしょうか？

足立／　今回、ＮＨＫの方は問題が多いようですけども。

荒俣／　あれはですから典型的な《偽怪》の怪。だから、人工的に作ったものが段々《ホンマカイ》の方に通じる一つのテクニックとして、これは、テクニックとしては悪いもんじゃないと私は思っていますが。

水木／　いや私はアレはあんまりあの興味がないですよ。【会場・笑】百物語はね、実際やればあれですけども。あの、私『百物語』なんて本も描いてたりしますがね、あの…あんまり興味ない。【会場・笑】

足立／　では、結果の悪かったＮＨＫのこと以外で何か質問は？

質問②男性／　私、実家が和歌山の海南という所で、海と山に挟まれたような所で、まぁ二十年くらい住んでたんですけれども。えー、高校生の時にですね、夜、試験勉強をしておりましたら、裏の山の方で「助けてくれー」っていう声がしてきたんですね。それが夜中に二、三回ありまして。それでじゃあ何があるのかなと、助けて欲しがっているなら行って見ようと。で、夜中にその声がする方に行ったんですけども、それでしばらく回って行きますと、その山のふもとの方にパトカーが止まってたんです。で、それでどうも警官らしき人が、一人の男を、その上半身裸の男を抱えて、パトカーに乗せているところだったんですけれども、ちょっとチラッと聞いてみたところによると、なんかヤクザ関係の喧嘩みたいなので、木に縛られていたらしい。それでまぁ、助けてくれと騒いでいたらしいんですけども。これってそれをそのまま信じるんじゃなくて、もしひょっとしたら、それは誰かひっかかるのを待ってる悪戯な狸だのなんだのと、そういうカタチで人を誑かして楽しんでいる。まぁそういったものの所為じゃないかと考えたんですけど、こういうのはどうなんでしょう。・・どうなんでしょうと言うのもおかしいですけど。例えば「助けてくれー」って声だけ聞いて、昨日こんな事があったよと。それで実際私がそこに行かなければ、それはひょっとしたら妖怪だったんじゃないかなと。そういったカタチで一つの妖怪ってものが存在したんじゃないかという気がするんですけど。

足立／　まぁ、錯覚・勘違いによるものというのもあると思うんですけど。これはどなたか？



京極／　あの、「助けてくれー」という声を聞いて、聞きっぱなしにしてしまって、そしてそれが何か他の怪しいものの所為であると、本当に腹の底から信じられるのでしたら信じた方がよかったかも知れません。【会場・笑】　で、あるいはその姿・カタチを見てもそれはあるいは狸の仕業であるということで、むしろスッキリするのであれば、そう思って頂いた方がいいと思います。えー、ただ、どうしてもそう思えないけど思いたいってくらいでしたら、余り考えないほうがいいと思います。【会場・笑】

足立／　他にどなたか？

質問③女性／　皆さんに分かりやすい素朴な質問を一つさせて頂きたいと思います。先生方は妖怪が好きなんだと思うんですけれども、先生方の個人的に非常に思い入れがある、この妖怪が一番好きだという妖怪を教えて頂いて、その思い入れと理由を教えて頂けないでしょうか？

足立／　全員ですか。

女性／　全員です。

足立／　かなり長くなるんで、二人くらいでどうでしょう？

女性／　あ、そうですね。

足立／　指名して下さい。

女性／　水木先生と・・あぁどうしよう。３人じゃ駄目ですか？　荒俣先生と京極先生。

足立／　では三役揃い組でお答え願います。

【会場・拍手】

水木／　あのー、好きな妖怪と言うとですねぇ、やっぱ《ぬりかべ》みたいなぼんやりした妖怪がいいですね。やっぱり余りシャキシャキした妖怪はタイプじゃないですね。黙って何もしないのが私はいいですね。はい。

荒俣／　あのー、僕はやっぱり昔から四代くらい東京の生活をしていたんで。東京のナンバー１の妖怪、なんと言っても《おいてけ堀の河童》なんですね。これは、うちのお婆さん、九十八歳くらいで最近亡くなったんですけども、このお婆さんに毎晩聞かされましたもの。今でも覚えています。僕はそうとう怖いです。えー、なんか夜中に堀の傍を通ると必ず、「おいてけ、おいてけ」と言って、置いてかないと手が出てきて池の中に引っ張り込まれるというこの妖怪は、今でも子供心

に怖かった妖怪です。

京極／　えー、やっぱり妖怪というのは怖くなければいけないし、愛敬がなければいけないし、不思議でなくてはいけないし、私の一番好きな妖怪は《水木しげる》です。【会場拍手・笑】

足立／　それでは、大サービスであと一問だけ受け付けますので。お子さんがいいですね。

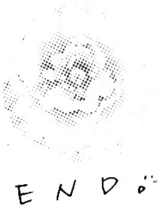
質問④男の子／　えーと、妖怪は全部で何人くらいいるんですか？

水木／　妖怪の数ですねぇ。あの妖怪の数は中国の大昔、皇帝ってのがおって、その時あれしたのが一万一千五百だとかなんかなんですよ。だから、妖怪の数というのは一万くらいおると思うけども、私が調べたところによると千。千ですよ。千で片付きますよ、だいたい。というのはね、河童でもねぇ「カワコ」と言ったりね、「シバテン」と言ったりね、「ヒョウスベ」って言ったり。同じ河童でも色々な種類があるんですが、これは河童と言ってしまえば一つですむし、そのような考え方からすると千ですよ。それでまたこの千はですなぁ、世界中の妖怪に当嵌まるんで、世界も同じなんですよ。同じようなものがいるんですよ。名前が違うだけでね。で、私は今、七百〜八百くらい描いとるからね、あと心霊を三百入れて、その妖怪だけではなくて、精霊とかそういう目に見えない方々を千集めてね、妖怪千体説を集会にあれしようと考えているんですけどもね、忙しくてね、漫画で。その為に遅れてとるんですけども、あのだいたい千で片付きますよ。それは、あのアラビアでもメキシコでもどこでも同じなんです。それを私は実際にそういう仮面とか何かを集めてね、コレはコレだという風に示そうと思ってるわけですよ。それで妖怪をかなり集めているわけですが、コレはコレと同じとかね、それを全部やろうと思って考えているんですが、ちょっと寿命がたらん。あと二十年くらいかかるんで、ちょっと十年ほどたらんような気がしておりますけどねぇ。だけどだいたい千で片付けようというその「ノーベル賞」もんの研究を今しかけとるんですわ。で、私は多田くんにも常に「ノーベル賞」のことを考えてくれって言ってるわけです。私はあの、スウェーデンに行って、会場を見てきたけどね。なんともう「ノーベル賞」の会場、こんくらいの会場ですよ。小さいですよ。だから大きいと吃驚するけど、あんたこれより小さいぐらいですからねぇ、あれには驚けんねぇ。【会場・笑】　だから、賞金にしか驚かんです。てなようなことです。

足立／どうも有難うございました。〈妖怪千体説〉とい

うですね、今、多くの人が認めてないですけども、世界的な話になっているんですから、是非ですね、水木先生がそういう新説をノーベル賞をものともせず、おっしゃってたというのを心に留めておいて頂きたいと思います。えー、妖怪は目に見えない存在だと言われてますが、私たちの心や幸せ、それから自然環境に深く結びついているものです。これからもですね、妖怪のことを、この境港からいろんなカタチで発信していってですね、一つの文化にしていきたいと思います。本日は第一回の世界妖怪会議ということで「妖怪の魅力」というものを中心に座談会を展開してきました。この次の会は来年ですけども『山陰・夢みなと博』というのがこの境港で開かれます。そこで、次に第二回の会議に引き継いで発展的に検証していきたいと思います。それでは、次回を楽しみにして頂いて、今回の会議を終わらせて頂きます。長時間に渡り、御静聴いただき誠に有難うございました。

終わり



注意事項

◆これは、九六年 八月 二十五日に行なわれた、世界妖怪会議の全内容（パネラー登場・退場時の総合司会者の言葉はカットしてます）を、愛蓮が録音したカセットテープから、愛蓮が起こしたものです。その為、多少間違ってたり、聞き取り違いもあるかも知れませんが（素人なので）、全体の内容を摑んで貰えたらと思い頑張ったので、許して下さい。

◆また、何分、会話を起こしているので、人の話し方には強弱等があり聞き取れない部分もありました。そういう部分については■■■といったふせ字になってます。ごめんなさい。

◆それと、会話のはしばしに出る「あー」とか、「その」とか「ええ」とかの間の部分？ は省略しているところもあります。

◆『アスカシロウ』とか『山田ノリオ』とか愛蓮がそれなりに調べてみても判らなかったものについては、？マークなどつけて有ります。知ってる方がいましたら教えて下さい。あと日本の地名とかは、自信ありません。

◆そんなわけで、まったく資料としては役にたたないかも知れませんが、行きたくても行けなかった人に少しでも会議の内容を知ってもらい、楽しんで頂けたらと思います。

用語解説　ってな程のもんじゃないですけど・・・。

【ピーパー】林さんの本を見たところ『ピーファー』となっていました。聞き取り能力がないようですみません。訂正が間に合わないので、ここで訂正させて頂きます。あと、林さんの本の表記だと『ハントゥー』は『ハントー』となってたり、『ピータイフウ』は『ピー・タイ・フウ』となってましたが、こちらは音的に一緒なので訂正しておりません。

【マレビト】民俗学で「異郷から来訪する神」のこと。人々の歓待を受けて帰ると言われている。折口信夫の用語。

【デカルト】フランスの哲学者。方法的懐疑によって、全てを疑うが、疑っている自己の存在を真理と認めることによって、哲学の第一原理を確立。「我思う、故に我あり」と言った偉い人ですね（笑）あとは長くなるので、御自分で調べて見てください。岩波文庫がお薦め。

【パラダイムシフト】ある時代に支配的なものの考え方・認識の枠組みが、移行していく、或いは崩れていくこと。

【唯物論】全ての根源を物質と考え、精神の実在を仮象と見做し否定する論理。

【アボリジニー】一般的には、オーストラリアの原住民を指すので妖怪ではありませんが、話から察するに「アボリジニーのミミという妖怪」というのを水木先生がお話する時に省略されてしまったのだと思います。『ミミ』という妖怪は石の中に住んでいて、家畜を飼っている。そこに人間の男を引っ張り込んで強姦しちゃうという妖怪らしいです。

【リンネ】輪廻じゃないですよ。『カール・フォン・リンネ』というスウェーデンの博物学者。近代分類学の祖。

【バニソイの儀】マレー半島のセノイ族の儀式。水木先生は、ここで〈精霊を呼ぶ歌〉を一週間聞いて、木になったり石になったり、万物と一体になる経験をしたと養老孟司さんとの対談で言ってます。

◆◆◆◆◆

妖怪名については、水木先生の著作を見るのが早いと思います。この世界妖怪会議は基本的に分かりやすく話そうと先生方が努力をしてたと思いますので、そんなに分からない用語とかはないと思いますが、他にもありましたら自分で調べることをお薦めします。ちょっと大変かも知れませんが。

松本　愛蓮

㊷ ぬりかべ



◆夜の海岸や人気のない道、森の中などに突然現れて人を驚かせる。押しても引いてもびくともしない。大きさを自由に変える。

一時間半にわたって熱論が繰り広げられた世界妖怪会議。本当に楽しかったですよ。水木さんが妖怪を感じられて楽しくてたまらんと話している隣で「楽しいだろうなぁ」と羨ましそうに呟いてた京極先生が印象的でした。いやロの動き見てたんですけど、たしかにそう呟いてた♥

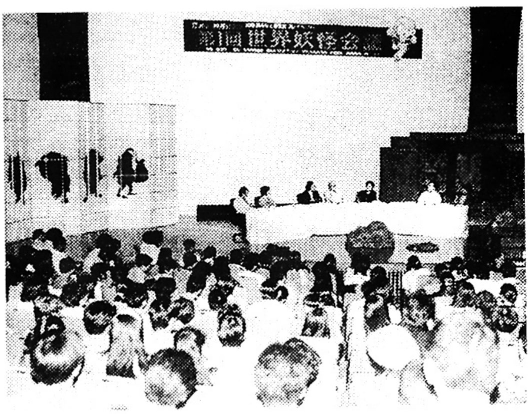
私は、妖怪というのはいると思ってます。そう思ったほうが楽しいですし。世の中には不思議はいっぱいなんです。（中禅寺ごめんなさーい）それに、こんな社会情勢じゃ、そんな風に少し現実逃避？　しないとやってられないじゃない。でも、江戸時代もその昔も、日本人の根本って全然変ってないんだなぁと思います。発達したのは文明だけよね。そんな間は、妖怪は絶滅しない。永久に存在はできる。私はそう思ってます。

小さい時、書店で鬼太郎の漫画を見つけ、再放送のアニメも見て、ずっと妖怪フリークだった私には、本当にこの会議は至福の時間でした。私も水木先生になってですね、ウハに会ってみたいです。でも小さい時、目々連は見たんですけど、あれは高熱出てたからなぁ（笑）。

そんな訳で、新聞記事も掲載しました。あの少しワケわかんない内容をよく纏めたなぁと記者に敬意をひょうします。【愛蓮】

ユーモア交えまじめに論議

境港　世界妖怪会議で水木さんら7人



熱のこもった論議が続いた「世界妖怪会議」

境港市主催の「第1回世界妖怪会議」が25日、同市の境港シンフォニーガーデンで開かれた。「妖怪とは何か」「妖怪の魅力」などをテーマに同市出身の漫画家で世界妖怪協会長の水木しげるさんら7人の研究者が、ユーモアを交えながらまじめに論議。全国の妖怪ファン約500人が詰めかけ、立ち見が出るほどの人気だった。

来年夏、同市で開かれる「山陰・夢みなと博覧会」のプレイベントとして企画。冒頭、黒見哲夫市長が「境港は妖怪に逢える街として全国に知られるようになった」と歓迎のあいさつ。

公開座談会では水木さんのほか、同市出身のノンフィクション作家、足立倫行さん、民族音楽学者の山田陽一広島大助教授、博物学者の荒俣宏さんらが参加。

妖怪の定義について、水木さんは「目に見えず、正体が分からないもので、八百万の神の親類だが、愛きょうがある」と述べ、小説家の京極夏彦さんは「妖怪は客観、主観の関係を補正するもの。妖怪的なものを無視しては、世界認識ができなくなる」と強調。荒俣さんは「妖怪に会うには、自分がなるのが一番」と、持論を展開した。

1時間半の議論の末、「妖怪は実在し、金銭、時間などにしばられた現代人には、より必要な存在」と意見が一致した。

第2回は来夏、夢博の会場で開く。

⬆毎日新聞　1996．8月26日（鳥取版）

♡世界妖怪会議関連記事のページ♡

信濃毎日新聞



約500人が参加して開かれた「世界妖怪会議」。右から4人目が水木しげる氏

お化けも住める街づくり

鳥取で初の〝世界妖怪会議〟

「妖怪（ようかい）は怖くて、愛きょうがあって、不思議なもの」―。国内の著名な「妖怪研究家」が一堂に会し、妖怪の魅力などについて語り合う第一回世界妖怪会議がこのほど、鳥取県境港市で開催された。同市は『ゲゲゲの鬼太郎』などで知られる漫画家、水木しげる氏の出身地で、「妖怪によるまちづくり」に取り組んでいる。

この会議は境港市の主催。妖怪によるまちづくりについて市民の意識向上を図るとともに、全国に向けてアピールするのが狙い。水木氏をはじめ、作家の荒俣宏、京極夏彦、多田克己の各氏、フリーライターの林巧氏、民族音楽研究家の山田陽一氏が出席し、ノンフィクション作家の足立倫行氏が司会を務めた。いずれの出席者も妖怪に精通している「妖怪研究家会議」には約五百人が参加した。

まず、パプアニューギニアの原住民が精霊を呼ぶ際に使う音楽が流された。山田氏が現地で録音したもので、会場は幻想的な雰囲気に包まれた。続いて、妖怪座談会がスタート。京極氏は「現代は客観を疑う時代。世情不安だけではなく、信じるものが信じられなくなったときに妖怪が流行する。今がそういう時期ではないか」と、現在の妖怪ブームを分析した。

自然と人間の共存を

水木しげるさんら　妖怪の魅力アピール

荒俣氏は「妖怪に会うためには、自分が妖怪になること。妖怪になるには三段階がある」などとユーモアたっぷりに語った。これを受けて水木氏は「自分は既に第八段階にある」とした上で、「わたしぐらいになると、妖怪の方から現れてくる。こうなると生きていて楽しい」と話し、会場を沸かせた。

最後に、客席からの質問に出席者が答えた。「いちばん好きな妖怪は何ですか」との質問に、京極氏は「妖怪は怖くて、愛きょうがあって、不思議なもの。わたしのいちばん好きな妖怪は『水木しげる』です」と答え、水木氏に最大級の賛辞を贈った。

妖怪によるまちづくりについて、会議を主催した境港市の担当者は「妖怪は自然とともに生きている。妖怪が住めるまちを目指すことは、人間と自然との共存共栄を目指すことにもなる」と、熱っぽく話す。



境港市内の商店街に設置されたゲゲゲの鬼太郎のブロンズ像

この妖怪によるまちづくりの発端となったのは、同市が商店街の活性化を狙って、一九九二年度から手掛けた「水木しげるロード」。総延長八百㍍の道路に、水木氏の漫画の妖怪のブロンズ像八十体が並び、年間三十五万―四十万人が訪れる観光地になっている。

市民レベルでも盛り上がりを見せ、水木氏のファンクラブ「ゲゲゲのしげる会」が、今年三月に設立された。全国の約五百人が入会し、今回の妖怪会議の前夜祭として設立総会が催された。

同市では、九七年七月に「ジャパンエキスポ鳥取97山陰・夢みなと博覧会」が開かれ、九八年度には水木しげるロードに「水木しげる記念館」がオープンする予定。この二つのイベントに合わせて、第二、第三回の世界妖怪会議やファンクラブ総会も計画されており、境港市の妖怪ブームは勢いを増すばかりだ。

➡信濃毎日新聞　1996　9月16日
※この記事は、松本市在住の藤川様に頂きました。有難う♥

「ようこそ妖怪の街へ」

魅力や体験あふれ

境港　初の「世界会議」に500人

夢みなと博プレイベント

来年七月に境港市の竹内工業団地で開催される山陰・夢みなと博覧会のプレイベントとして二十五日「第一回世界妖（よう）怪会議」（境港市主催）が、同市出身の漫画家、水木しげるさんらを交えて、同市中野町の境港シンフォニーガーデンで開かれ、全国から集まった妖怪ファンが座談会やパネル展示を通じて妖怪の魅力をたんのうした。



妖怪談議に花が咲く「第一回世界妖怪会議」

博覧会には、境港市館として「ゲゲゲの鬼太郎」をテーマにした「鬼太郎ワンダー・シアター」も出展されるため、妖怪の魅力を広く知ってもらおうと初開催した。黒見市長が「水木ロードも完成し、〝妖怪に会える街〟にようこそ」と歓迎のあいさつをし、パプアニューギニアの精霊信仰の音楽が、参加者を音と光で妖怪の世界へいざなった。

座談会では、足立倫行さんを司会役に、水木さんをはじめ、妖怪研究で知られる小説家の荒俣宏さん、京極夏彦さんら六人が妖怪の魅力や、世界の精霊信仰などについてざっくばらんに討議した。

水木さんは、妖怪研究に出かけた南国の島でワニの妖怪の夢を見た経験をもとに、「妖怪は目に見えない存在だが、次第にのめり込んでいくと相手の方から姿を見せてくれる。妖怪から始まって、世界の八百万の神々を知りたい」とユーモアたっぷりに話した。

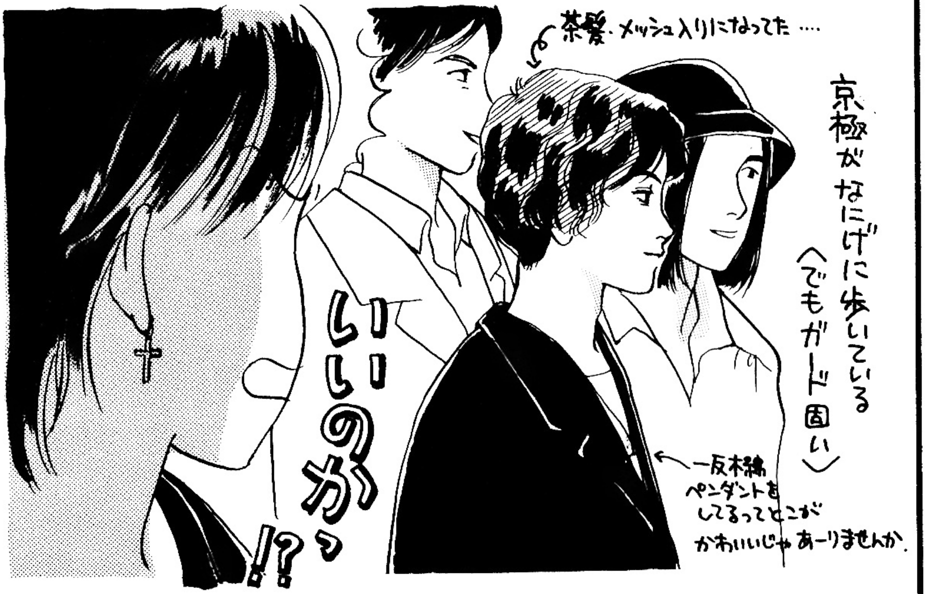
荒俣さんも、妖怪は「半分人間、半分が霊のような存在」と位置づけ、京極さんも幼少期の体験が妖怪との出会いになったことに触れながら、「主観と客観のすき間に妖怪が潜んでいる」と会場を沸かせた。

また、フリーライターの林巧さんや民族音楽者の山田陽一さんは、「東南アジアやパプアニューギニアでは、精霊が人間界を守っているという考え方。妖怪はいまだ日常生活に深く根づいている」と紹介。詰めかけた五百人の妖怪ファンは、さまざまな意見が飛び出した座談会で、妖怪の魅力を再認識していた。

座談会の終了後、黒見市長が水木さんを博覧会大使に任命。鬼太郎音頭や新曲「ゲゲゲのふるさと」も披露され、ホールでは妖怪のパネル展示が開かれた。

⬆日本海新聞　１９９６．８月２６日

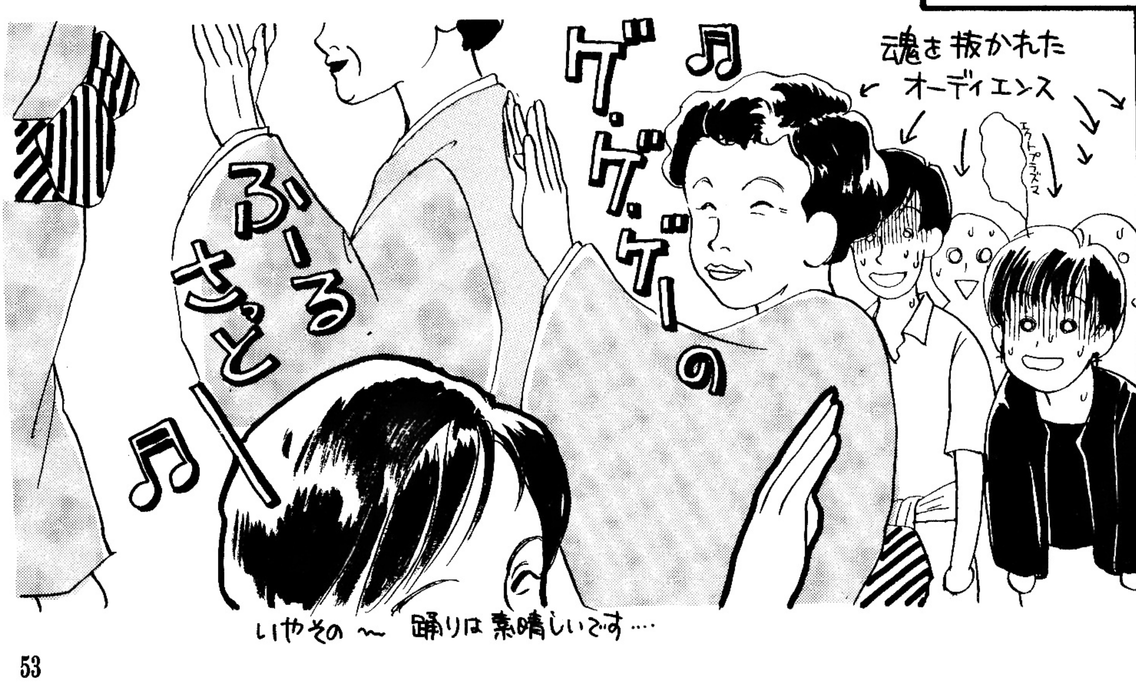
僕はいったんもめん



おおたにきょうこ渾身の体当たりレポ（大嘘）

第1回世界妖怪会議in境港

鳥取県境港市。サカナと鬼太郎の街。普段は静かなはずのこの街の、8月24、25日はスゴかった。
目の前をあの京極夏彦や水木しげるや荒俣宏がうろうろしているのだ。ねずみ男や子泣きじじいやぬりかべもあるいているのだ。
いかに首都東京といえども、この面子が揃うことはめったにあるまい。
（けっこうあったらどうしよう～～）
水木しげるロードはいつもの倍の人出と思われ、特に普段は見ることの無い、若い娘さんが大量に出現し、ロードに華を添えていた。
24日は今にも雨がふりそうであったが、ロード完成式典終了後の鬼太郎音頭の披露の頃には空が明るくなってきた。スタッフに聞いたところによると、鬼太郎音頭を踊るときには不思議と雨が上がるのだそうだ。
そんな具合に、街全体が熱に浮かされたような二日間であった。
そう、今思うと白日夢のごとく・・・。
おわり。↑うそうそ！続くよ！





本当の僕は何処にも居ない

という言葉，御本人を見てなんとなく納得。
「京極夏彦」を演出してるのがありあり。
案外素顔は人の良いおやじ（頭はいいけど）なのでは。

でもいつもカメラ目線（笑）

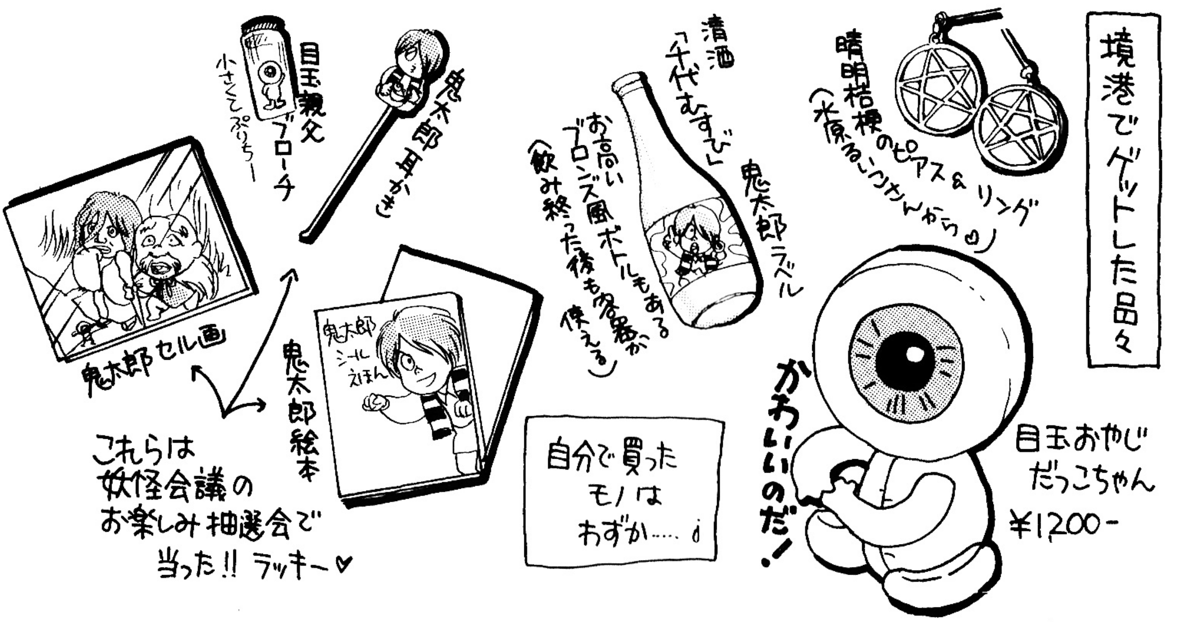
さて、ニフティ「京極倶楽部」の面々と妖怪会議前夜祭の会場へ向かう。会場と言っても駅前の空き地なのだが、小学校のグラウンドほどのスペースの正面奥にステージ、その手前にビール瓶のケースが椅子代わりに並べられ、客席になっている。それを取り囲むように軽食の屋台などが並んでいる。

うーん、素朴な祭りだ……と、妙に感心して座っていると、客席の前方で熱心にステージ上の京極先生を撮っている女性が居る。「へ〜チカラはいってるなああの人」と思っていたらそれが松本愛蓮さん（笑）。

次の日おおたには愛蓮さんにちょっとお世話になるのだが、それはまた別のお話。（森本レオ入ってます）

そのお話とは、25日に公開座談会の会場で、ワタシが恥も外聞もかなぐり捨てて京極先生にサインをねだった時のこと。サインは出来ないけれど写真を撮るのはOKということで、愛蓮さんにシャッターを押してもらったのです。もしかすると、写真撮らせてくれたのも、愛蓮さんとワタシが一緒に居たからかもしれない……愛蓮さん、アリガトウ！京極先生も、アリガトウ！このご恩は一生忘れませんわ。





座談会の内容で印象的だったのは、水木先生の「今の学校制度で育つコドモは、妖怪に会うことは難しい」という発言。管理され、大人の柵の中で育ち想像力を持たない子供には妖怪を見る能力は育たない、ということなのだろう。

確かに、今の子供は「真の闇の怖さ」なんて知らないだろうなあ。

京極先生も、「これからの時代は、今までの（科学的）思考を転換する時代（パラダイム・シフトって、こういうことでいいのかな？）である」と発言していたし、確かに、戦後発展を遂げるためにある面で驕り高ぶってきた人間が、自然に対し謙虚にふるまう時代（これは鬼太郎のテーマでもあるのだろう）が来つつあり、これからどんどんスピリチュアルな方向へヒトは向かうのかもしれない。だから、今、水木先生や荒俣先生や京極先生のような、妖怪と人間の橋渡しをしてくれる人物が必要なのであろう。

……なんちゃってー。

ちょっと位はまじめなことも書かねばと思ったんだけど、普段怠けているアタマには難しいわ……。

それでも、時折冗談も交えた座談会、凄く面白かったです！また来年も会えることを祈りつつ……これにて。





京極先生INさかいみなと。♥

by みおはらるいこ。

…というわけで 境港の妖怪会議へ行って京極先生のご尊顔;を拝見してきたるいこです。いやあまあ 世の中京極夏彦ったら美形作家ってことになってるケド ちょっと「姑獲鳥」の写真の呪にかかってるのよね だって最近の京極ったらデブじゃん。…などと ホントにファンか こいつ;というようなことを公言してた私でしたが(;)、ゴメンナサイ。私がまちがってました(笑。いや まちがってたんじゃなくて センセが一時よりやせたのかも ムニャムニャ;)京極先生 太ってません。それに ホントかっこよかったです。(ええ 手の平を返したように。)髪型も 私は前のロンゲがイヤだったんですが(私 オトコの長髪ダメなの;)今は稲垣ゴロちゃん風で大変良いです。単に好みですが。
…しかし 外見や髪型でこんなにアレコレ言われる作家のは 林真理子と彼くらいだろう;





しかし今回何が失敗したって、彼が小柄;というのを忘れてヒールの高いサンダルをはいていってしまったわたし;; 一緒に写真を撮って頂いたのはいいんですが さりげに 足を折って低くしました。(…だって センセを見おろすなんてヤじゃん;)ビミョーなオトメ心をわかって;;
牛乳を飲め、
京極夏彦!先生。





座談会ではお得意のポーズ↙もしてくれましたが、どーも話の流れと違う方向に目線が…?と思っていたら となりの友人が「…カメラがある。」
どーも関係者の方が撮ってたカメラの方にさりげにカメラ目線になってたようで。

さすがはミステリ界の周富徳。。。。
…そのわりには下図↓のような皆の注視を気にしないよーなこともしてたけどなー。

君が気になるのはカメラだけなんか?!

座談会では(おとなりの)水木先生と目で語り合って(笑)いたりして幸せそうでしたが、さすがに1番弟子の荒俣センセにはかなわないようで水木センセーがどんどん荒俣先生の方へ寄ってっちゃって（荒俣 水木 京極 ←よってる）水木ラブラブの京極先生ちょっとがっかりってトコ?(笑。)

けっこうあっち向いたりこっち向いたり笑ったりジュースのんだりカメラ目線だったりいろんな京極先生が見れてうれしかったです♥(←パンダ扱いか?!)(ところで水木御大はすごく気配りの方でした。けっこう自分1人でしゃべりまくるのではと思ってたら、パネリスト全員にまんべんなく話を振って気を使っていらっしゃいました。さすが年の功。でも「けっこう若い娘がきとるのお」と荒俣先生にささやいてたけど、マイク入ってるのよ、御大… しかもそれはホントド京極ファンだと思うが…。)

帰り、私は夜行列車で帰ったんですが、飛行機で帰った友人が「京極先生ずっと近くでウロウロしてたわよー」と後で言ってて私も飛行機にすればよかった。(搭乗ゲートで彼の前にわり込んだ。という彼女。うーん私もわり込みたかった… 何のことかな。)空港からはモノレールで浜松町まで…って タクシーじゃナイのか… 倹約してるのか講談社… …と帰り方までレポートされちゃうとは思わないことでしょう。
すみませんねえ よけーなお世話ですね



とりとめのないレポートですみません。

境港（さかいみなと）

日本有数の漁港の町は鬼太郎がお出迎え

境港での思い出

愛蓮編

※ここは愛蓮が嫌いな人が読んでも意味はありません。飛ばしましょう（笑）

境港は本当にいいところなのよ～！　しつこいですけど。なんて云うんでしょうか暖かい街です。

妖怪会議が終わり、先生も見送り（手を振ってくれた姿は感動…）。愛蓮は困ったことに気が付いたのです。

二泊予約した旅館。二日目は割烹料理屋に行くと決めてた愛蓮は、夕飯を頼まなかったんですよ。そしたらロードには食物屋が余りないことに気付いて、真っ青。いや、あるんですけど、日曜日だからどこも休みなの。

ここまで来て、カップラーメンはグルメな愛蓮は我慢ならねぇ！　旅先の食事って大切な楽しみなのよ。でコンビニもないし、勿論ファーストフードもない（注；駅前通りにはです）、路頭に迷った愛蓮は、鬼太郎ポストの置いてあったお土産屋さんに入りました。朝、散歩してた時も親切にして頂いたので、暇だし、路頭には迷うしで、少し寄ってみたんです。そこはゲゲゲのしげる会の入会申し込みも出来る所でして、水木ファンの方が休める机と椅子も用意してあります。結局、夕飯はおやつに持ってきたカロリーメイトで手を打つことにして、お店の方とその仲間達（と呼ばせて下さい）である優しい地元のおじさま達や、水木ファンのお兄さんと、水木先生トークに盛り上がって楽しく夜のひとときを過ごすことにしました。

普段、まわりに京極ファンはいても、水木ファンは皆無に等しいのでうかれて話してましたよ。ある兄さん（云うても、私と同じくらいの歳）なんか、無職でお金ないけど水木先生のこのイベント見たさに、青春十八切符で東京から鳥取まできたといいますから凄い。旅館代も節約のため、寝袋持参。凄いファンである。私では真似できない。本当に楽しかったなぁ。今ごろ、寝袋のお兄さんはどうしてるかしらね…。

で、さんざん話をしたあげく、お土産まで戴き（ふりかけばばぁなるフリカケ）、お礼を云い店を出たところ、おじさまがですね、夕飯の食べれる店に連れてってくださるとの事。そこまで図々しく甘えていいもんかと少し悩みましたが、食物の誘惑には勝てず、夕飯をご馳走になってしまいました。美味しいでーす。お刺身。もう

アクセス&インフォ

●交通

・ＪＲ境線境港駅下車。またはＪＲ山陰本線米子駅から日本交通バス（☎0859－33－9111）、日ノ丸自動車バス（☎0859－32－2121）境港行きで50分、600円終点下車。ともに頻発。

・クルマ　米子自動車道米子ICから国道431号を利用。

美味しかったよ。やはり境港！　もうチョ・ウ・マです。新鮮だしねー。もう幸せでした。Nさん有難う御座います。

それから更に、優しいおじさまはですね、境港観光に連れてってくれました。水木しげるロードだけじゃ、境港じゃないって事で。皆生温泉・砂浜・夜の漁り火・市内の様子――。車で回ってくれました。一番、感激したのは高台から見る夜景。弓ヶ浜の綺麗な弓型の海岸線――浮かぶ漁り火。凄く美しかったです。

その間に、水木しげるロードが出来るまでの大変だった話とかも教えて下さり、世の中こんなに良い人がいるもんなのね。と、じーんっとなってしまいました。

次の日も一人で大変だからと空港まで送ってくれたり、優しいです。

他にも、鬼太郎茶屋の荒木さんにもよくしていただきました。朝の散歩の時、お抹茶下さったりしてね。一反木綿のペンダントが欲しいとちょっと言ってみたら、朝、頼んできて下さったり。（郵送で全然構わなかったのに）

鬼太郎茶屋には、京極さんのサインもありますので、境港へ行ったら寄ってみましょう。

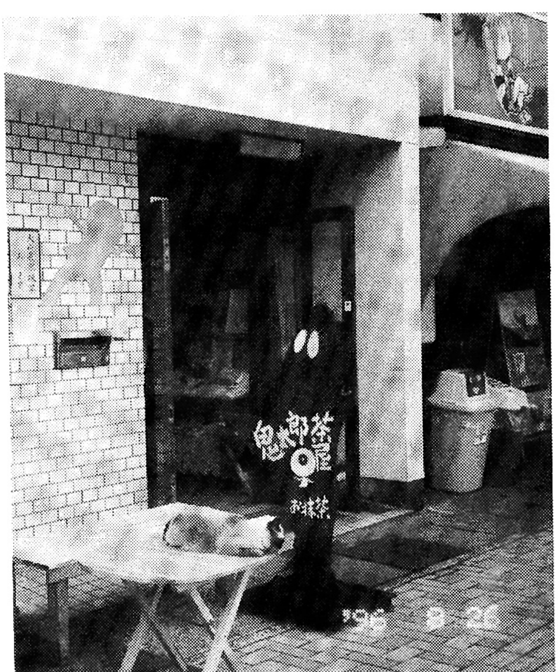
ここでもいろいろお話して戴けて、一人の孤独な旅行も（笑）、ちっとも淋しくありませんでした。

旅館の方もすごく優しかったし、本当いい人が多くて。なんかね、人情だわ…なんて思いました。これがね、東京とかだったりすると、人の親切に警戒してしまいますけど。のどかな境港では、そんなものはなく。故郷がこういう場所にあったらと実家も家も山梨の愛蓮は思いました。

妖怪会議がなくても、鳥取にはまた行きたいです。

次は、八雲も入れて鳥取・島根だわ♥

怪談&妖怪ツアー・・・うっとり…




はーーい♥
水木しげるロード
境水道大橋
境水道
〈赤〉
光ってる
なんと言っても、街灯でしょう。マジで夜はコワイです…
グリーン
ラブリーだけど…
ある お土産屋さんの店先には、鬼太郎ファミリーのさらし首が…♥
いや、着ぐるみを展示してるのよ♥
毛糸
で、そのさらし首SHOP(笑)の中には、妖怪ポストがあります。
すごくよく出来ている。
ここで出すと、消印が鬼太郎になるのだよ♥
また、水木しげるFCの入会もこの店で可能です♥
私は入りましたよ。
郵便はがき
NIPPON
50
記念スタンプもある！
何故か猫のよーにうさぎが出没。
近所の人のペット で、散歩するらしい。ロード内を…!!


で、先程紹介した鬼太郎茶屋、
夏彦グッズがいっぱいなので、ファンならば絶対行くべし♥
サイン入りだっこちゃんも飾ってある。
京極夏彦
下手クソですみません。
もうりょうの色紙
ロゴ完成イラスト♥
夏彦先生/画
なんと、芳名帳にはゴーカな顔ぶれが…♥
オールスター夢の共演
記帳ノート？
関東水木会
関東水木会・京極夏彦
関東水木会・
荒俣宏
私もしてある♥
日本で一番夏彦グッズが見れる店♥
ここの店では、ハンドメイドのグッズも買えるし、お茶も飲めるし、本当にオススメよ♥
水木さんのサイン本もあるよ♥
世界妖怪大全
ゲゲゲの鬼太
ゲゲゲの鬼太
のんのんばあと
カランコロン
京極さんは、作家になる前から、
よくここに来てねぇ…
・ARAKI・
ここのお店の荒木のおばちゃんは、「ゲゲゲのふるさと」の作詞もなさってます。
ゲゲゲのしげる会テーマソング
関東水木会他、水木ファンのお母さん、て感じかなぁ
でも、以前から何度も境港をたずねてる夏彦先生、
本当に本当に、水木先生が好きなのねぇ…♥
I LOVE しげる
P.S/ 字が汚くてごめんなさい。絵も…;

超人気作家

京極夏彦が遭遇した「学校の怪談」



きょうごくなつひこ '63年、北海道小樽市生まれ。グラフィックデザイナーとして広告代理店に勤務。その後独立し、アートディレクションなどを手がける。物心ついたときから1日1冊の読書習慣を堅持。〝京極蔵書〟は1万冊を優に越える。'94年『姑獲鳥の夏』でミステリー界に彗星のごとくデビュー。その後『魍魎の匣』、『狂骨の夢』、『鉄鼠の檻』と次々に大作を発表。いずれもベストセラーに。最新作は『絡新婦の理』(今夏予定)。水木しげる愛好家としても高名で、自宅には『悪魔くん』や『河童の三平』など往年の妖怪TVドラマのLDも揃えている。

⬆これはFRIDAY 5/24号。写真がとてもいい感じで気に入ってるから見開きで載せます♥怪物と先生って違和感ないね。

撮影所に一歩足を踏み入れるなり、小説家・京極夏彦氏の瞳からは好奇の光が溢れ出た。そこは巨大な木造校舎セット。小学校に閉じ込められた子供達の恐怖の一夜を描く、映画『学校の怪談2』が撮影真っ最中なのだ。〝妖怪小説〟という新ジャンルを開拓した京極氏は、怪談映画を撮影中のスタジオに集まると言われる悪霊を敏感に感じ取っているのか？

「冗談をおっしゃらないでください。マスコミに身を置く人が妄言を吐いては困りますね」

京極夏彦、33歳。彼は一昨年、忽然とミステリー界に出現した。昭和20年代後半の東京周辺を舞台にした一連の作品は妖怪小説の名に相応しく、20カ月も妊娠し続ける女や、甦る首無し死体など、この世のものとは思えない〝人物〟が登場する。タイトル中の〝姑獲鳥(うぶめ)〟や〝魍魎(もうりょう)〟、〝鉄鼠(てっそ)〟は古来より伝わる妖怪の名称だ。また氏は『ゲゲゲの鬼太郎』の水木しげる氏の弟子を自任し、『妖怪協会』の相談役まで務めている。そんな妖怪愛好家が霊の存在をアッサリと否定するとは。

「幽霊の根拠となる心霊科学と妖怪は相入れぬものです。妖怪は自然科学とは視点の異なる森羅万象の捉え方の一種ですが、自然科学を否定する立場にはない。一方、心霊科学を認めることは自然科学を否定することにつながる。明治以降は科学万能の世となりましたが、その反動のように心霊科学も一般に流布されるようになり、その結果、幽霊が急速に幅を利かせ始め、妖怪を圧迫するようになりました。例えばよく知られている〝座敷わらし〟。あれは元来、旧家が盛衰するという現象を妖怪という視点で認識したものなのです。ところが近年、その正体が実は死んだ赤ん坊だという理由づけがなされるようになった。こうしてエセ科学によって因果関係が設定されて、〝座敷わらし〟は幽霊の領域に取り込まれつつある。このようにして僕の愛する妖怪たちは滅亡寸前まで追い込まれている。これは憂うべき事態なのです」

なるほど、一筋縄ではいかない深い世界だ。そんな京極氏が妖怪再生への一助になるのでは、と期待を寄せているのが、映画『学校の怪談2』なのである。昨年7月に公開された第1作は観客が300万人を超える予想外の大ヒットを記録した。

「前作に登場した〝トイレの花子さん〟や〝口裂け女〟といった都市伝説は、発生や伝播のあり方からみても正に現代の民話であり、キャラクターも実に妖怪的です。また窓から覗く〝巨大な顔〟や廊下をかっ歩する〝巨大な脚〟などもただ驚かすためだけの存在で、その古典的な無目的ぶりからも妖怪の名に相応しい」

と、妖怪応援団長としての京極氏の評価も高い。だが、難点もあったという。

「惜しむらくはラストに出てくるクモのようなクリーチャー。ホラー映画を意識された演出なんでしょうが、造形的にもあれは〝妖怪〟ではない。新作ではもっとわけのわからない日本的なものが出てきてくれれば『東海道お化け道中』（大映'69年）以来、久々の妖怪映画の誕生ということになるのですが……」

小・中学生に行ったアンケートでもクモ怪物は評判が芳しくなかったという。前作より続投の平山秀幸監督(45)からも、新作はより和風なテイストを強めると聞き出した小説家は、我が意を得たりとばかりにうなずいた。

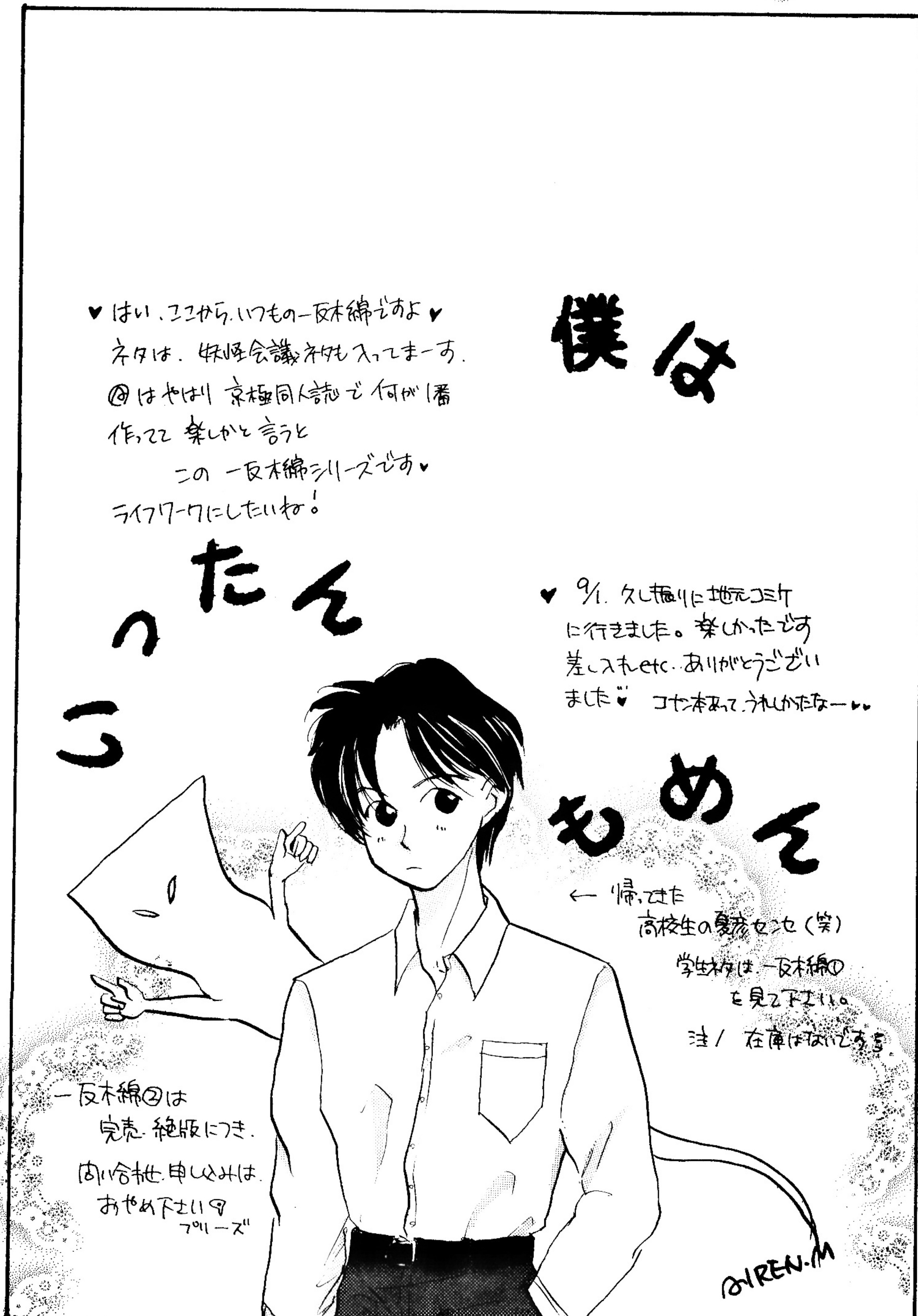
「岸田今日子さんや米倉斉加年さんという出演者も実に妖怪映画に相応しいキャスティングですね」

と、さも愉快そうに撮影所の深奥へ、妖怪との遭遇を求めていった。



東京・調布にっかつ撮影所内に作られた校舎の質感に感心する京極氏を第1作の妖怪テケテケらがお出迎え。『学校の怪談2』（主演・野村宏伸）は7月20日から東宝系公開　PHOTO 加藤雅昭

僕は一反木綿


僕なこったんもめん
♥はい、ここから、いつもの一反木綿ですよ♥
ネタは、妖怪会議ネタも入ってまーす。
㋹はやはり 京極同人誌で 何が1番
作ってて 楽しいかと言うと
この 一反木綿シリーズです♥
ライフワークにしたいね！
♥ 9/1、久し振りに地元コミケに行きました。楽しかったです
差し入れetc..ありがとうございました♥ コナン本あって、うれしかったなー♥
← 帰ってきた
高校生の夏彦センセ（笑）
学生ネタは、一反木綿①を見て下さい。
注／ 在庫はないです
一反木綿②は
完売・絶版につき、
問い合せ・申し込みは、
おやめ下さい♥
プリーズ
ゐREN.M

涙のSMAP



妖怪会議より。

☆いい男の涙って、いいですよねぇ・・・

テレ屋だから、嘘ついたが、悲しいのには変わんない。

「涙のSMAP」というのは、SMAP×SMAPという番組のコーナーで涙をきそうというものです♥

SMAP関係の切り抜きetc. ゆずって下さい。（とくに慎吾）
あとSMAP×SMAP 第1回〜よろしく!!

僕はいったんもめん

日本推理作家協会賞受賞パーティ編

タイトル長いデスミ



松本愛蓮



実話らしいんデス。本当なの〜!?


出版関係者とは思えぬ美女が一人・・・しかも和服♥
二次会？カラオケパーティでのお話♥
東京カラオケルーム
先生、一曲唄って！
今日は家内も来てるんです。
テレテレ
↑さっきとスーツ違うじゃん♥
やはり、絹の靴下か？
BELOVED
それとも似てると評判のGLAYか？
↑GLAYのボーカルと夏樹センセは似てるとのウワサ♥
負けた
言葉なし
ガーンッ
どじょーすくいの唄ね♥
正解。→安来節
小説界NO.1美男美女カップル!!
コ台＆朋ちゃんにも負けない！(嘘)
僕はユーモアもあるんだよ
びっくりな話でした
これも実話らしいデス♪ 先生ステキ～♥

 END.

ねえ、最後に一つ聞いていいですか？





松本愛蓮
あやまりのP

ごめんなさーい 力つきました。
絵描けません 本当は、もうちょっと
描く予定だったのですが、時間切れ。
実は、P63～70は、部分入稿で、
ギリギリなんです
サンライズさん、いつも ギリギリで
すみませーん♡

そんな訳で
FAX ゲスト様です♥
忙しい時に、ごめんね…

9月の連休、遊びすぎました。

by @

こんにちは。とび入りゲストの亀谷キヤ子です。
「僕は一反木綿・3」発行オメデトウゴザイマス。



ハハァ… 夏彦ですか…。

うーん…。

困っちゃったことに私作品には興味があるけど、作家にはあまり興味をもたない人間らしいのです。

夏彦センセイに思うところはですね、たいした演出家だなあということです。TV・学校・劇場でさまざまな演出家を見て思ったことなんですけど、Japaneseな演出家って皆弁が立つ立つ。あ、Japaneseっていうのは日本の歌舞伎とかを元た演出してる人達や、とにかく日本的な劇作をしている人達のコトです。→



でも、愛蓮サンのように実際会ってみると、そうも言っていられないんでしょうが。

そういう意味でも夏彦センセイは京極堂だなあと。

唯今絶不調。

■ どうもこんにちは。真崎梓です。Fax原稿で失礼します。数時間前に穴ウメを愛蓮さんに頼まれたので頑張って京極先生を描いてみましたが…。似てないいい。すんません…。文句ならイキナリ頼んだ愛蓮さんへよろしく！ とんでもない…

■ 8月25日。きよえさん（＊愛蓮さんね。いつもこう呼んでるから。）が妖怪会議へ夏彦先生を追っかけて行っていた頃、私は人手の足りないイベント会場を走り回っていました。（一睡もしてなかったのにいい）しんどかったですね きよえさん…。でもかなり楽しかった様で、よかったですね。お土産話、楽しかったです。

■ ところで上記の通り、私、唯今絶不調です。体調を崩した上に精神的ダメージもくらってしまって原稿どころじゃありません。昔の病気が再発しかけてます。4年前入院した時の、リンパ節炎…。そんな訳で一部で告知した10/10の新刊は10/27東京に延期します。待ってらっしゃる方いらっしゃるなら謝っときます。ごめんなさい…。

■ そんなワケで、穴ウメになるかどうかギモンの残るクサレ原稿(トーク)でした。ごめん。

'96.9.某、まさき。



日時／１９９７年　１月　４日(土)

場所／東京・銀座小劇場（地下鉄・銀座駅徒歩５分）

詳しくは、奥付住所・お茶会係まで専用ペーパーを取り寄せて下さい！！






山陰 夢みなと博覧会プレイベント
第1回 世界妖怪会議


'96 9 25


'96







京



極

♥という訳で、一反木綿ず いかがでしたか？（是非）²感想etc
聞かせて下さい。本当に苦労したんですよ。2度とやるもんかっっ!!
文字起こし♡ でも、まあ、夏1番の思い出を1冊にまとめる
ことができて、なんか、中学の頃のスクラップBOOK思い出しました。
で、よかったなあと…。もうすぐ入稿です、またギリ²だよ♡
あ、上の写真は"すばる10月号"より♥ やはり、期待を裏切ら
ない男…♥♥♥ あと、ゲストして下さった方々、ありがとうござい
ました。お互い、良い思い出ができて幸せですね♥

それでは、妖怪会議の関係者と
境港の皆さまに感謝
をこめて…

P.S/ なんか文章
ムチャクチャで
ごめんなさい。

AIREN.M

おくづけ

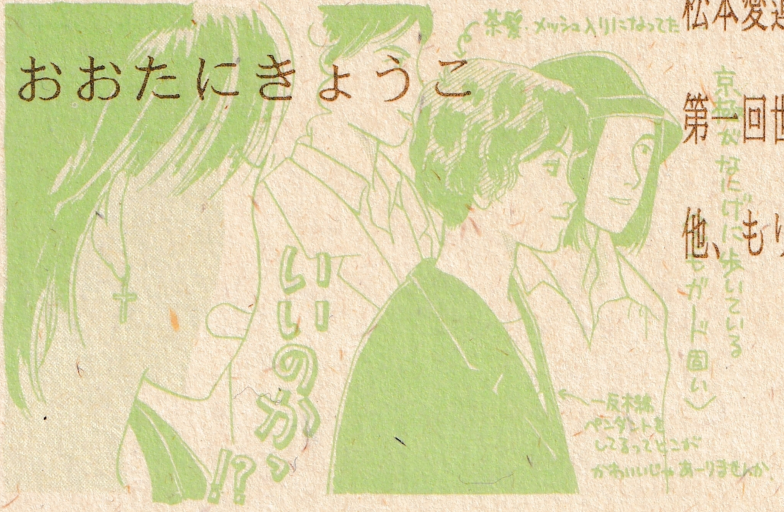


ありやまた先生と私。

荒俣先生の『帝都物語』も大好きですが、やはり『日本妖怪巡礼団』が一番好きです。境港でお会い出来て嬉しかったです。

発　行／京極ミーハーの殿堂
　　　　モーリシャスオルカン
発行日／１９９６．１０．６．
印　刷／高品質のサンライズ様
連絡先／〒４００
　　　　山梨県甲府市千塚５-15-32
　　　　飯窪様方　松本愛蓮

※講談社及び京極夏彦先生には秘密。



おおたにきょうこ

松本愛蓮のウルルン境港レポート

第一回世界妖怪会議・全内容紹介

他、もりだくさんSPECIAL

第1回世界妖怪会議in境港

Special Guest



水原るいこ

モーリシャスオルカン